

草津市における単身世帯に関する調査研究報告書
－1人暮らし高齢者に着目して－

2023(令和5)年3月

草津市 草津未来研究所

要旨

草津市には学生数が 15,000 人規模の大学キャンパスと数多くの工場が立地していることなどから、若年層の単身世帯が多い特徴がある。2020(令和 2)年の国勢調査結果をみると、依然として 19-24 歳が最も単独世帯の割合が高いものの、女性では 85 歳以上が最も高い増加率であり、高齢者の単独世帯が増加している。

そこで高齢者の 1 人暮らしの状況について、過去に本市が実施した調査結果から再分析を行ったところ、1 人暮らしは 1 人暮らし以外と比べ、主観的幸福観が低く、手段の日常生活動作スコアは高いことがわかった。また、男性では年齢区分に関わらず、1 人暮らしの方が、相談相手や看病してくれる人、生きがいといった項目の「いない」「ない」の割合が、女性や 1 人暮らし以外と比べて高く、孤立に陥る恐れが高い可能性が示唆された。さらに、この割合は 2017(平成 29)年調査より 2020(令和 2)年調査で上昇していた。

1 人暮らし高齢者に向けた施策は、これまでの支援に加え、このような男性の特性を踏まえた上で、男性をターゲットとした支援の検討も必要ではないかと考えられる。また、孤立については、高齢期以前から潜在的に問題が存在していることから、多世代を対象として取組むことが求められる。そして、コロナ禍があったことで、社会的分断がより顕著になっているため、孤立については、早期に実態を解明する必要があると考える。

目次

はじめに	1
第1章 単身世帯の増加とその課題	2
1 単身世帯の増加	2
2 単身世帯の課題	3
第2章 草津市の世帯の状況	6
1 世帯の状況	6
2 性別および年齢別の状況	8
3 学区・地区別の状況	12
第3章 1人暮らし高齢者の意識や生活状況	18
1 草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の再分析	18
2 調査結果	19
3 多変量解析結果	30
4 1人暮らし回答者の特徴	36
第4章 草津市における1人暮らし高齢者の課題と今後に向けた方向性	37
1 みえてきた課題	37
2 今後に向けて	38
おわりに	39
関係者一覧	40
参考文献	41
参考資料	43

はじめに

2020(令和 2)年の国勢調査結果によると、本市の人口は 143,913 人であり、前回(2015(平成 27)年)調査と比べて 6,666 人(4.9%)の増加となっている。一方で、世帯数は 66,944 世帯であり、前回調査と比べて 6,720 世帯(11.2%)の増加となっており、人口を上回る増加となっている。特に、一般世帯のうち、単独世帯は 30,517 世帯(一般世帯の 45.6%)であり、前回調査と比べて 5,653 世帯(22.7%)増加している。

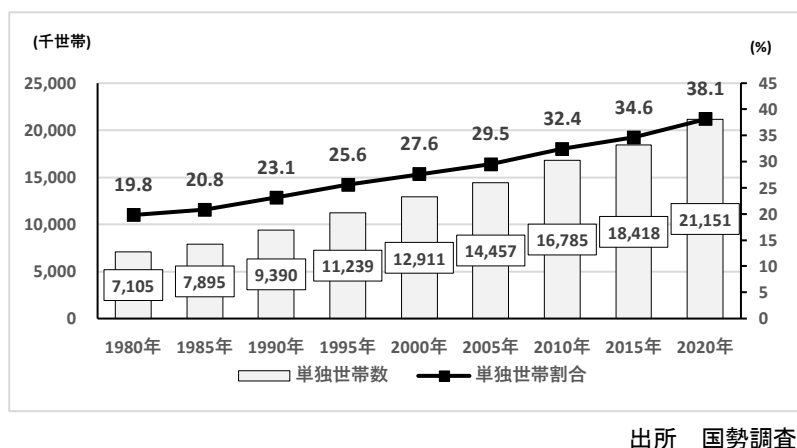
これまで結婚をして同居家族がいることを標準としてきた日本の社会において、1人暮らしの増加は、多様なライフスタイルの広がりである一方で、貧困のリスク、そして社会的に孤立するリスクなどが高まっていくと考えられる。特に、今後は少子化の影響から若者の1人暮らしが減少し、長寿化や団塊の世代の高齢化に伴い高齢者の1人暮らしが増加していくことから、社会に与える影響は大きい。こうしたリスクに社会としての対応が求められている。

そこで、本調査研究では、まず国勢調査結果から本市の単独世帯の状況を概観する。その中でも1人暮らしの高齢者に着目し、2020(令和 2)年および2017年に実施した「草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」について、1人暮らしの方の回答を抽出し、意識や生活実態、ニーズ等を1人暮らし以外と比較する再分析を行う。

第1章 単身世帯の増加とその課題

1 単身世帯の増加

社会構造の変化や人々の価値観が多様化していく中で、家族というものの形も変化している。その中で、単身世帯(1人暮らし)の増加も指摘されている。国勢調査によると、1980(昭和55)年時点で約711万世帯であった単独世帯¹は、2020(令和2)年には約2,115万世帯に増加している(図1-1)。これは、国立社会保障・人口問題研究所による、2030年に約2,025万世帯という2018(平成30)年時点の推計をすでに上回っている。総世帯数に占める割合は2020(令和2)年で38.1%、総人口に占める割合は16.8%になっており、単身世帯の増加傾向は今後も続くと考えられている。



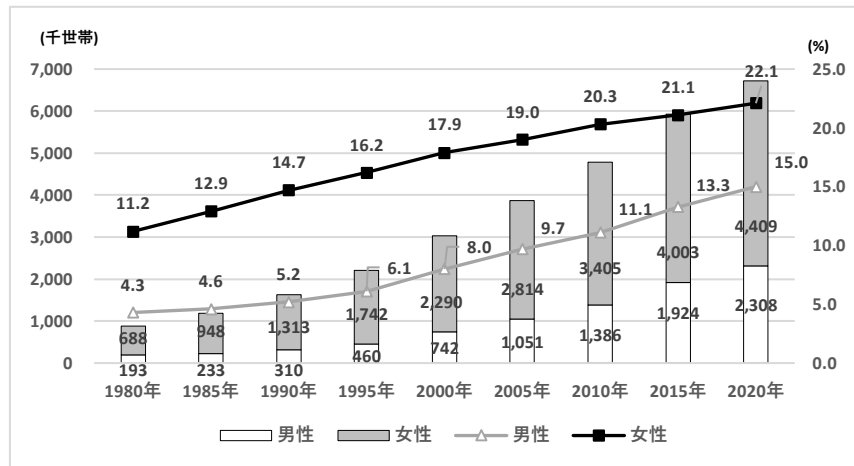
出所 国勢調査

図1-1 単独世帯の推移

特に、今後は少子化の影響から若者の1人暮らしが減少し、長寿化や団塊の世代の高齢化に伴い高齢者の1人暮らしが増加していくことから、社会に与える影響は大きい。こうしたリスクに社会としての対応が求められている。

2022(令和4)年版高齢社会白書によると、65歳以上人口のうち、単独世帯の人口は671万7千人となっている。また、65歳以上人口に占める割合は19.0%となっており、男女別にみると男性が約231万人、女性が約441万人で、女性が男性の2倍近くとなっている(図1-2)。

¹ 本報告書では、国勢調査については調査項目どおり単独世帯、国勢調査以外は単身世帯と表記しているが、どちらも「世帯人員が1人の世帯」を示す。また、世帯でみるか個人でみるかによって、「単身世帯」「単独世帯」「1人暮らし」と3つの用語を用いるが、いずれも同一の対象を示す。



出所 国勢調査

図 1-2 65 歳以上単独世帯の推移

65 歳以上の単独世帯は男女ともに増加傾向にあり、1980(昭和 55)年にはそれぞれ人口に占める割合は男性 4.3%、女性 11.2%であったが、2020(令和 2)年には男性 15.0%、女性 22.1%となっている。65 歳以上の男性のうち 7 人に 1 人、65 歳以上の女性のうち 5 人に 1 人が 1 人暮らしとなっている。また、老人ホーム等に居住する社会施設の入所者は約 180 万人、病院・療養所の入院者は約 40 万人となっている。

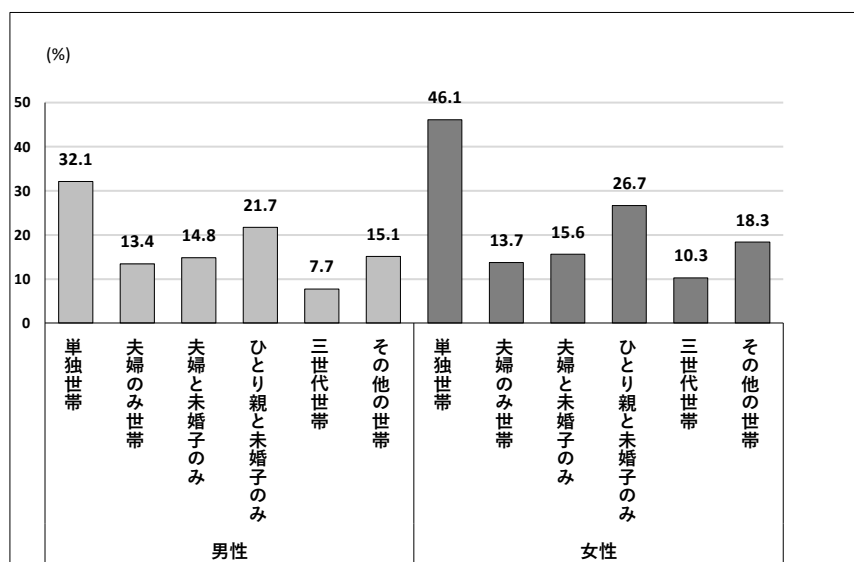
高齢者で単身世帯が増えたのは、長寿化による高齢者の増加と結婚をした子どもと老親が同居しなくなったことが大きな要因である(藤森 2010)。また、高齢者だけでなく、50~60 代では特に男性の単身世帯が増えている。これは未婚者の増加によるところが大きい。未婚者の単身世帯は配偶者がいないだけでなく、子どもがいないことも多く、頼れる家族がないケースが懸念される。結婚や世帯形成の面で大きな変化が進んでおり、この傾向は今後も続くと考えられている。

2 単身世帯の課題

これまで結婚をして同居家族がいることを標準としてきた日本の社会において、単身世帯の増加は、多様なライフスタイルの広がりである一方で、貧困のリスク、社会的に孤立するリスクなどが高まっていくと考えられる。

(1) 貧困のリスク

貧困のリスクについては、65歳以上の相対的貧困率²を男女別・世帯類型別にみると、単身女性が46.1%と最も高い(図1-3)。



出所 阿部(2021)

図1-3 世帯類型別にみた65歳以上の相対的貧困率

65歳以上の単身女性は、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2015(平成27)年の420万人が2030年には502万人となり、約20%増加していくと推計されている。この間の65歳以上の女性人口の伸び率は9.6%なので、単身女性の伸び率の方が高くなっている。したがって、相対的貧困率の高い高齢期の女性の増加によって、高齢期の女性の貧困が一層深刻になっていくことが懸念されている(藤森2018)。

(2) 社会的に孤立するリスク

孤立³のリスクについては、孤独・孤立対策の重点計画(内閣官房2022)において、「独居高齢者」は「孤独・孤立の問題を抱えている、あるいは孤独・孤立に至りやすいと現

² 世帯可処分所得(世帯内のすべての世帯員の所得を合算)を世帯人数で調整した値の中央値の50%を貧困線として、これを下回る世帯可処分所得の世帯に属する人の割合。(国民生活基礎調査)

³ 一般に、孤独は主観的な概念であり、ひとりぼっちと感じる精神的な状態を指し、孤立は客観的な概念であり、社会とのつながりや助けのない、または助けの少ない状態を指す。(内閣官房「孤独・孤立対策の重点計画」)

在一定程度認識されている当事者」の一つのケースとして指摘されている。イギリスでは社会的なつながりが弱いと 1 日 15 本の喫煙と同程度の健康への悪影響があり、社会的孤立は健康格差に影響を与えるとの研究があり、孤独・孤立は心身の健康面へ影響する、命に関わる問題であるとの認識が必要であるといわれている(内閣官房 2022a)。

この他にも、高齢者の単身世帯は他の世帯以上に、要介護者となった場合の対応が難しくなることが懸念される(藤森 2017)。

全国的にこのような状況の単身世帯について、次章より、本市の状況を確認していく。

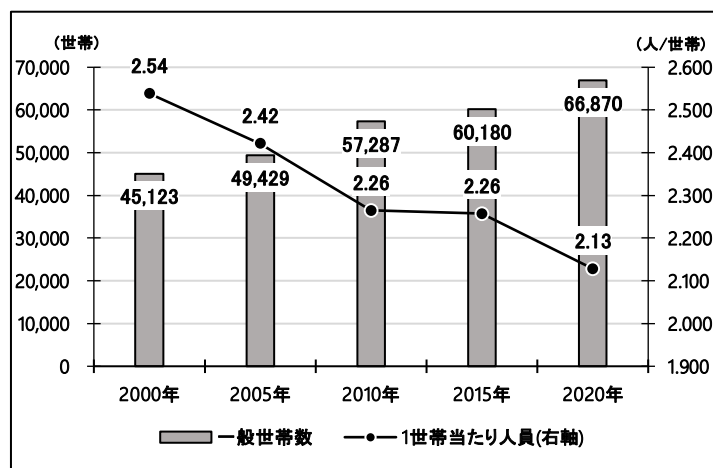
第2章 草津市の世帯の状況

1 世帯の状況

本市の人口は、滋賀県毎月人口推計調査によると2022(令和4)年4月1日時点で144,564人となっている。

2021(令和3)年度よりスタートした第6次草津市総合計画における人口の見通しは、日本全体が人口減少局面に入っている中でも本市の人口は依然として増加し、計画期間が終了する2年前である2030年の147,000人程度がピークと推計しており、その後は減少に転じ、2040年には143,200人程度になると見込んでいる。

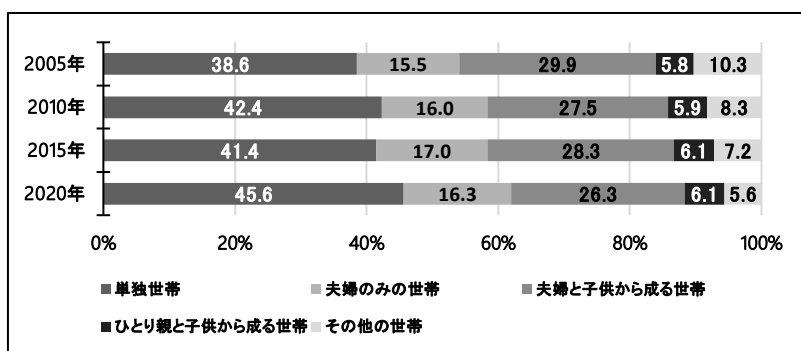
2020(令和2)年国勢調査結果において、本市の一般世帯数は66,870世帯であり、2000(平成12)年以降の推移をみると、増加している(図2-1)。一方で、一般世帯の1世帯当たりの人員の推移をみると減少しており、2015(平成27)年の2.26人から2020(令和2)年は2.13人に減少している。



出所 国勢調査

図2-1 草津市の一般世帯数と1世帯当たりの人員

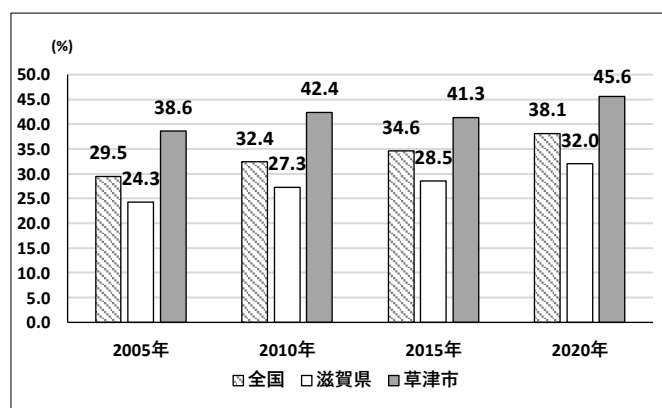
一般世帯を世帯の家族類型別にみると、単独世帯は30,517世帯であり、2015(平成27)年と比べると22.7%(5,653世帯)増となっており、一般世帯に占める割合は45.6%に上昇している(図2-2)。



出所 国勢調査

図2-2 草津市の家族類型別世帯数の割合

本市で最も多い家族類型である単独世帯割合の推移について、全国、滋賀県と比較すると、いずれも本市の割合が最も高い(図2-3)。その一方で、世帯数増減の推移をみると、一貫して増加しているものの、2010(平成22)年-2015(平成27)年の増加率の低さが目立つ(表2-1)。これは、本市に立地していた立命館大学経営学部が2015(平成27)年4月に大阪いばらきキャンパスへ移転したことが影響していると考えられる。



出所 国勢調査

図2-3 単独世帯割合の推移

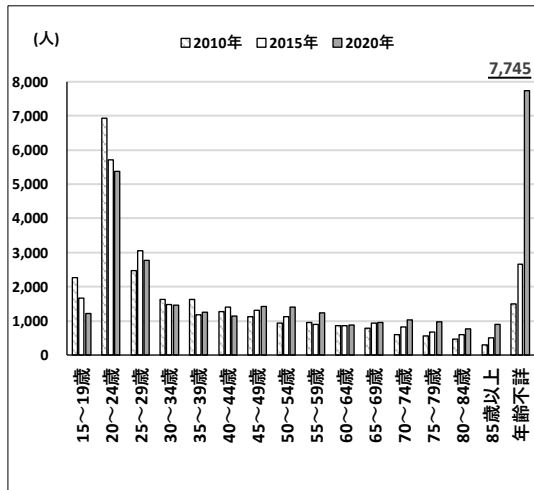
表2-1 世帯数増減の推移

		実数(世帯)				増減数(世帯)			増減率(%)		
		2005年	2010年	2015年	2020年	5-10	10-15	15-20	5-10	10-15	15-20
草津市	総数	49,429	57,287	60,180	66,870	7,858	2,893	6,690	15.9	5.1	11.1
	1人世帯	19,061	24,278	24,864	30,517	5,217	586	5,653	27.4	2.4	22.7
全国	総数	49,062,530	51,842,307	53,331,797	55,704,949	2,779,777	1,489,490	2,733,120	5.7	2.9	4.4
	1人世帯	14,457,083	16,784,507	18,417,922	21,151,042	2,327,424	1,633,415	2,733,120	16.1	9.7	14.8

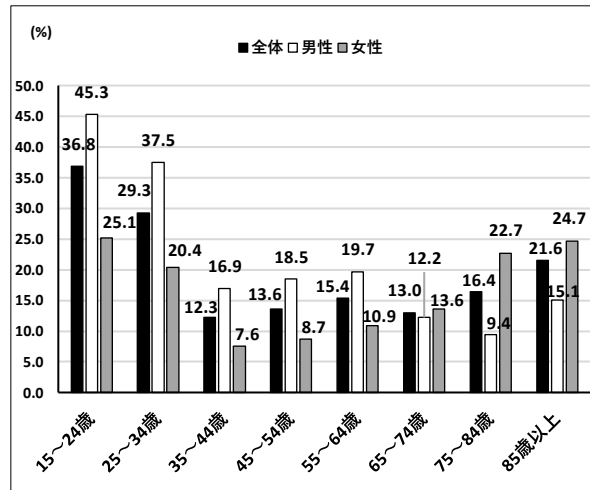
出所 国勢調査

2 性別および年齢別の状況

性別・年齢別でみていくにあたり、2020(令和2)年は「年齢不詳」が最も多いことに留意する必要がある(図2-4)。その上で年齢10歳階級別および性別で単独世帯の割合をみると、男女共に15～24歳(男性45.3%、女性25.1%)で最も高くなっている(図2-5)。男性では25～34歳が37.5%と続くが、女性は85歳以上が24.7%と続いている。また、女性では15～64歳までの各年齢階級で男性を下回っている一方、65歳以上では男性を上回っている。全国では男性が25～34歳(28.8%)、女性は75～84歳(26.6%)で最も高いことと、女性が65歳以上で男性を上回ること、といったところは本市でも同様の傾向がみられるものの、男女ともに15～24歳が最も高い割合であることは本市の特徴であるといえる。



出所 国勢調査

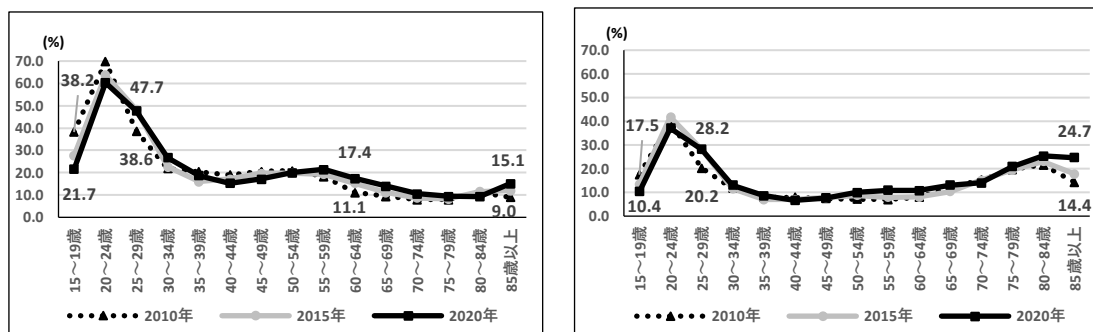


出所 国勢調査(2020)

図2-4 草津市の年齢別単独世帯数の推移

図2-5 草津市の年齢別人口に占める単独世帯割合

性別・年齢5歳階級別の単独世帯割合の2010(平成22)～2020(令和2)年の推移をみると、最も減少しているのは男女ともに15～19歳(男性:-16.5%、女性:-7.1%)、最も増加しているのは男性25～29歳(9.1%)、女性は85歳以上(10.3%)であった(図2-6)。減少については、前頁に挙げた大学の学部移転や、2020(令和2)年からの新型コロナウイルス感染症の流行により、大学の下宿生が減少したことが影響しているのではないかと考えられる。



男性

女性

出所 国勢調査

図2-6 草津市の性別・年齢5歳階級別の単独世帯割合の推移

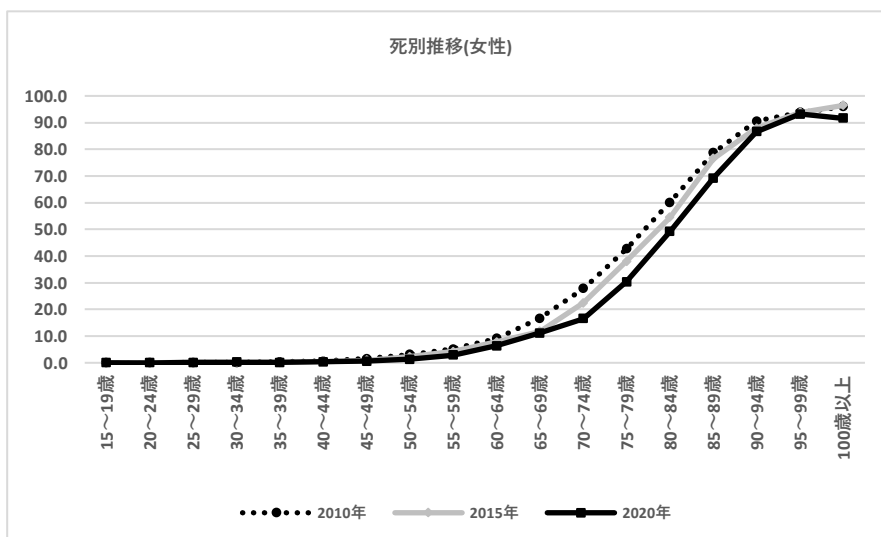
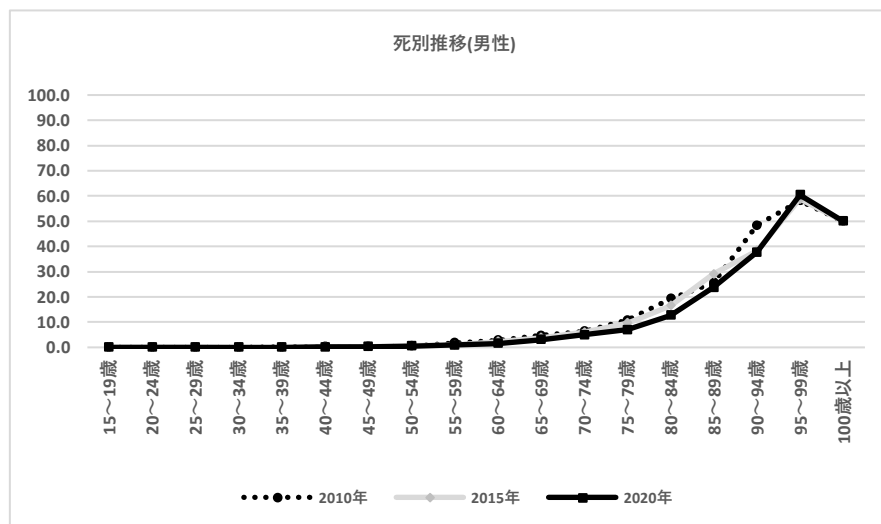
単独世帯の増加要因の一つとして、未婚化・晩婚化が考えられる。そこで、次に本市の未婚率の推移を確認する(表2-2)。2010(平成22)～2020(令和2)年の間において、男性は50～69歳、女性は25～29歳および50～64歳で増加傾向がみられる。

表2-2 草津市の性別・年齢5歳階級別の未婚率の推移

(%)	男性				女性			
	2010年	2015年	2020年	10-20	2010年	2015年	2020年	10-20
15～19歳	99.6	99.7	99.7	0.1	99.6	99.7	99.7	0.0
20～24歳	98.3	98.1	98.3	0.0	94.4	95.3	95.5	1.1
25～29歳	75.6	77.5	76.1	0.5	60.7	63.4	64.2	3.5
30～34歳	44.8	41.5	43.0	-1.8	32.7	30.1	30.9	-1.8
35～39歳	31.7	29.4	27.1	-4.6	19.7	19.4	18.3	-1.4
40～44歳	23.7	24.2	22.6	-1.1	14.4	15.4	15.1	0.7
45～49歳	18.6	20.6	20.7	2.0	10.4	12.6	13.6	3.2
50～54歳	13.6	16.0	18.5	5.0	6.7	9.5	11.5	4.8
55～59歳	10.2	11.7	14.3	4.1	3.4	6.2	8.9	5.5
60～64歳	5.9	9.3	10.5	4.6	2.5	2.8	5.7	3.2
65～69歳	3.1	4.9	7.7	4.7	1.6	2.6	3.0	1.4
70～74歳	1.4	2.2	3.6	2.2	1.6	1.6	2.4	0.8
75～79歳	1.3	1.0	1.7	0.4	3.2	1.4	1.7	-1.5
80～84歳	0.8	1.1	0.9	0.1	2.3	3.7	1.4	-0.8
85～89歳	0.2	0.9	0.5	0.3	2.3	2.5	4.0	1.7
90～94歳	-	0.0	0.3	-	0.6	1.9	2.4	1.8
95～99歳	-	0.0	0.0	-	3.2	1.4	3.8	0.5
100歳以上	-	0.0	0.0	-	4.5	0.0	0.0	-4.5

出所 国勢調査

他に単独世帯の増加要因として、長寿化に伴う配偶者との死別の増加も考えられる。若干女性で高齢に移行しているものの、死別割合の推移に大きな変化はみられない(図2-7)。



出所 国勢調査

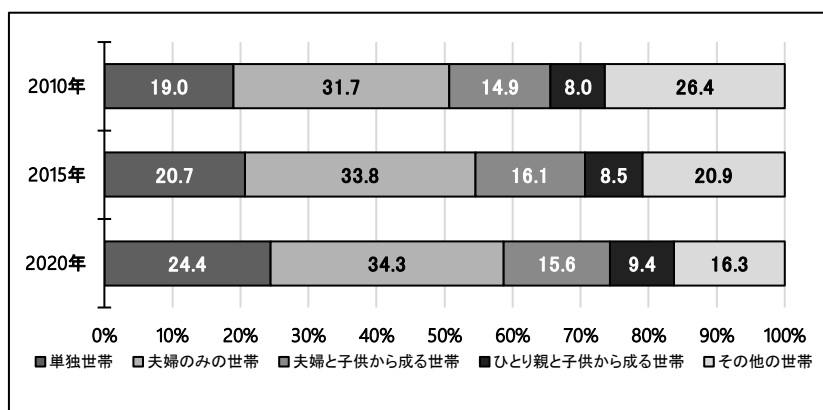
図2-7 死別割合の推移

次に、単独世帯の高齢化の状況を見ていくこととする。2020(令和2)年の65歳以上世帯員のいる一般世帯は18,955世帯で、一般世帯に占める割合は28.3%となっている(表2-3)。65歳以上の単独世帯は4,620世帯で、65歳以上世帯員がいる一般世帯の24.4%を占めており、2010(平成22)~2020(令和2)年の間で最も増加している家族類型となっている(図2-8)。また、65歳以上の単独世帯が一般世帯全体数に占める割合は6.9%となっており、2010(平成22)年の4.7%、2015(平成27)年の5.9%と比較すると、増加傾向にある。

表2-3 草津市の65歳以上世帯員のいる世帯数の推移

	一般世帯 総数	65歳以上世帯員 のいる世帯数	一般世帯総数に占める 65歳以上のいる世帯(%)	65歳以上 単独世帯数	一般世帯総数に占める 65歳以上単独世帯(%)
2010年	57,287	14,275	24.9	2,714	4.7
2015年	60,180	17,106	28.4	3,535	5.9
2020年	66,870	18,955	28.3	4,620	6.9

出所 国勢調査



出所 国勢調査

図2-8 草津市の65歳以上世帯員がいる一般世帯の家族類型別世帯の割合

表2-4 65歳以上の単独世帯の性別状況(2020(令和2)年)

	男性			女性		
	人口	単独世帯数	人口に占める 単独世帯割合(%)	人口	単独世帯数	人口に占める 単独世帯割合(%)
全体	72,646	17,768	24.5	71,267	12,749	17.9
65歳以上	13,499	1,548	11.5	16,558	3,072	18.6
75歳以上	6,348	674	10.6	8,382	1,960	23.4
85歳以上	1,372	207	15.1	2,827	698	24.7

出所 国勢調査

65歳以上の単独世帯について男女別にみると、男性が1,548人、女性が3,072人で、女性が男性の約2倍となっている(表2-4)。これは日本全体と同様の傾向である(P.3 図1-2)。また、65歳以上人口に占める割合は、男性が11.5%、女性が18.6%となっており、65歳以上の男性のうち8.7人に1人、65歳以上の女性のうち5.4人に1人が1人暮らしとなっている。また、75歳以上の単独世帯については男性が674人、女性が1,960人、85歳以上では男性が207人、女性が698人となっており、いずれも女性が多い状況である。

3 学区・地区別の状況

次に、国勢調査の小地域集計結果を利用して、本市における学区・地区別の状況を確認する。

表 2-5 本調査で用いる学区・地区

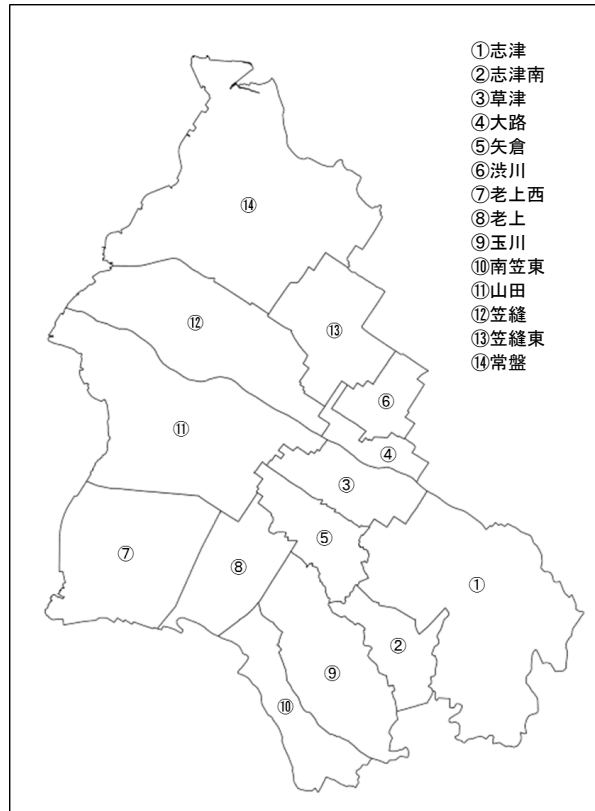
	町丁名		町丁名		町丁名		町丁名
志津	馬場町	草津	西草津2丁目	玉川	桜ヶ丘5丁目	笠縫	上等4丁目
	山寺町		草津町		野路東1丁目		上等5丁目
	岡本町	大路	大路1丁目		野路東2丁目		野村2丁目
	青地町		大路2丁目		野路東3丁目		野村3丁目
	追分1丁目		大路3丁目		野路東4丁目		野村4丁目
	追分2丁目		西大路町		野路東5丁目		下笠町
	追分3丁目		野村1丁目		野路東6丁目、7丁目		野村5丁目
	追分5丁目		追分4丁目		野路1丁目		野村6丁目
	追分6丁目		矢倉1丁目		野路2丁目		野村7丁目
	追分7丁目		矢倉2丁目		野路3丁目		野村8丁目
	追分8丁目	東矢倉1丁目	野路4丁目		平井町		
	追分南1丁目	矢倉	東矢倉2丁目		野路5丁目		平井1丁目
追分南2丁目	東矢倉3丁目		野路6丁目	平井2丁目			
追分南3丁目、4丁目	東矢倉4丁目		野路7丁目	平井3丁目			
追分南5丁目	西矢倉1丁目		野路8丁目	平井4丁目			
追分南6丁目	西矢倉2丁目	野路9丁目	平井5丁目				
追分南7丁目	西矢倉3丁目	南笠東	南笠東1丁目	平井6丁目			
追分南8丁目	渋川		渋川1丁目	川原町			
追分南9丁目			渋川2丁目	川原1丁目			
若草1丁目			西渋川1丁目	川原2丁目			
若草2丁目			西渋川2丁目	川原3丁目			
若草3丁目	若竹町		若竹町	笠山1丁目	川原4丁目		
若草4丁目			新浜町	笠山2丁目	駒井沢町		
若草5丁目	老上西		矢橋町	笠山3丁目	新堂町		
若草6丁目			橋岡町	笠山4丁目	集町		
若草7丁目	老上		野路町	笠山5丁目	片岡町		
若草8丁目			南草津1丁目	笠山6丁目	下寺町		
草津			東草津1丁目	南草津2丁目	笠山7丁目	下物町	
		東草津2丁目	南草津3丁目	笠山8丁目	芦浦町		
	東草津3丁目	南草津4丁目	山田	北山田町	長束町		
	東草津4丁目	南草津5丁目		山田町	上寺町		
	草津1丁目	南笠町	木川町	穴村町			
	草津2丁目	桜ヶ丘1丁目	御倉町	北大萱町			
	草津3丁目	桜ヶ丘2丁目	笠縫	上笠町、上笠1丁目	志那町		
	草津4丁目	桜ヶ丘3丁目		上笠2丁目	志那中町		
西草津1丁目	桜ヶ丘4丁目	上笠3丁目					

※表中、複数の町丁を1行に表示している箇所は、合算処理がされている。

※なお、国勢調査の小地域データは町丁を単位とするが、本調査では町丁を分割することのないよう区域を表2-11に示すとおり設定したため、実際の小学校区・地区とは異なっているところがある。

出所 草津未来研究所作成

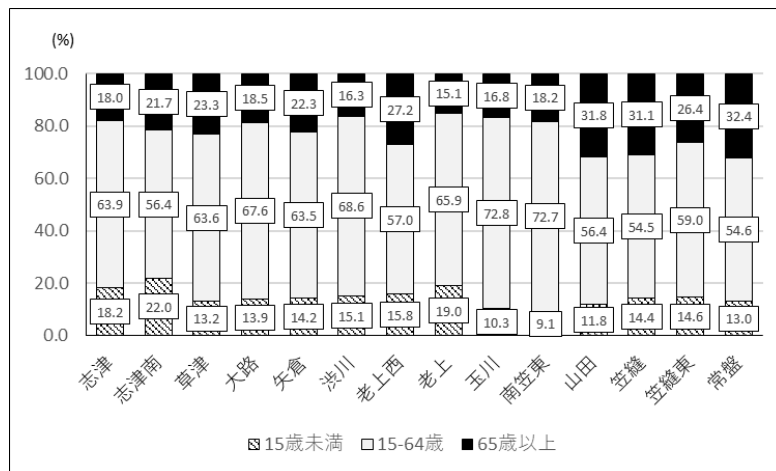
草津市の学区・地区を地図で表したものが、図2-9である。なお、草津第二小学校区は慣例に従い、大路区と表示する。



出所 草津未来研究所作成

図 2-9 学区・地区概要地図

年齢3区分別の人口について、各学区・地区別に示したものが図2-10である。

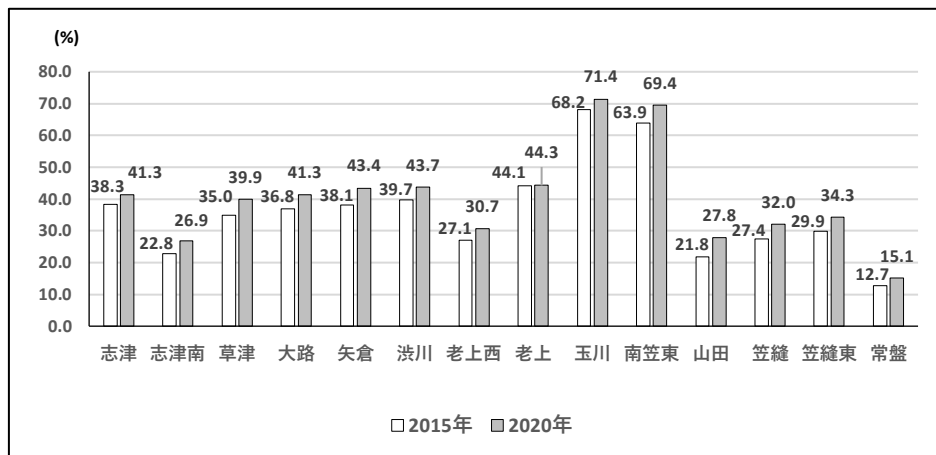


出所 国勢調査(2020)

図2-10 草津市の学区地区別の年齢3区分別人口

学区・地区別の一般世帯に占める単独世帯割合は玉川学区が71.4%と最も高い結果であった(図2-11)。また、2015(平成27)年から2020(令和2)年の変化について、全ての

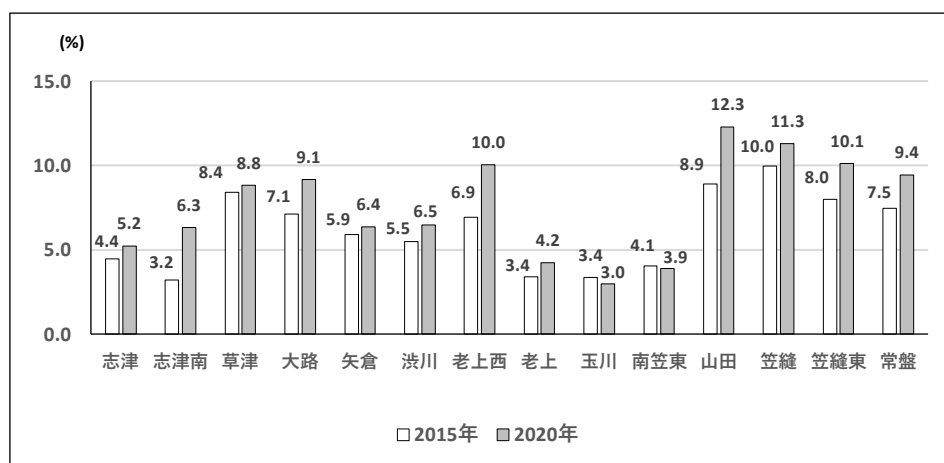
学区・地区で増加しており、山田学区が6.0%(21.8%→27.8%)と最も増加していた。



出所 国勢調査(2020)

図2-11 草津市の学区地区別の一般世帯に占める単独世帯割合

次に、一般世帯に占める65歳以上単独世帯割合をみると、2020(令和2)年は山田学区が12.3%と最も高く、笠縫学区、笠縫東学区と続く結果であった(図2-12)。また、2015(平成27)年から2020(令和2)年の変化について、玉川・南笠東学区以外の学区・地区で増加しており、山田学区が3.4%(8.9%→12.3%)と最も増加していた。

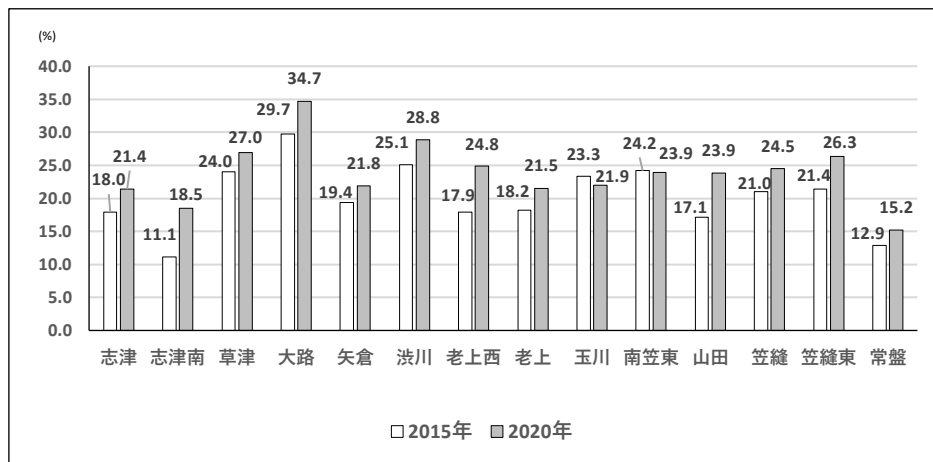


出所 国勢調査(2020)

図2-12 草津市の学区地区別の一般世帯に占める65歳以上単独世帯割合

学区地区別の65歳以上世帯員のいる世帯に占める単独世帯割合をみると、大路区が34.7%と最も高く、渋川学区、草津学区と続く結果であった(図2-13)。また、2015(平成27)年から2020(令和2)年の変化についても、玉川・南笠東学区以外の学区・地区で

増加しており、志津南学区が7.4%(11.1%→18.5%)と最も増加していた。



出所 国勢調査(2020)

図2-13 草津市の学区地区別の65歳以上世帯員のいる世帯に占める単独世帯割合

単独世帯数は玉川学区が多いが、一般世帯全体に占める65歳以上の単独世帯の割合および増加率(2015年→2020年)は山田学区、65歳以上のいる世帯に占める単独世帯の割合は大路区が多い。

ここまでみてきたデータのうち、2020(令和2)年国勢調査結果の学区・地区別データについて、地図上に表したものが以下の図⁴である。

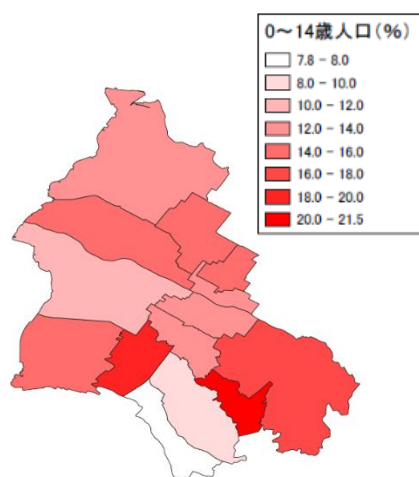


図2-14 0~14歳人口割合

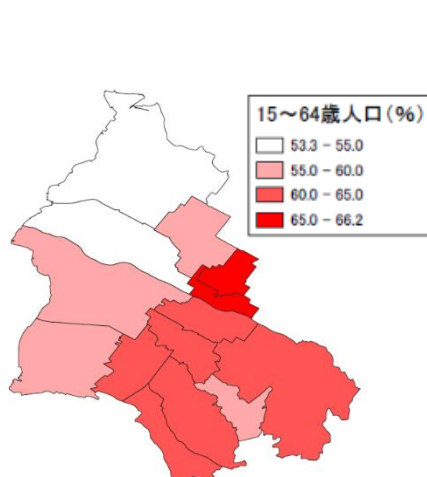


図2-15 15~64歳人口割合

⁴ GISソフトはQGIS Ver. 3.22を使用。

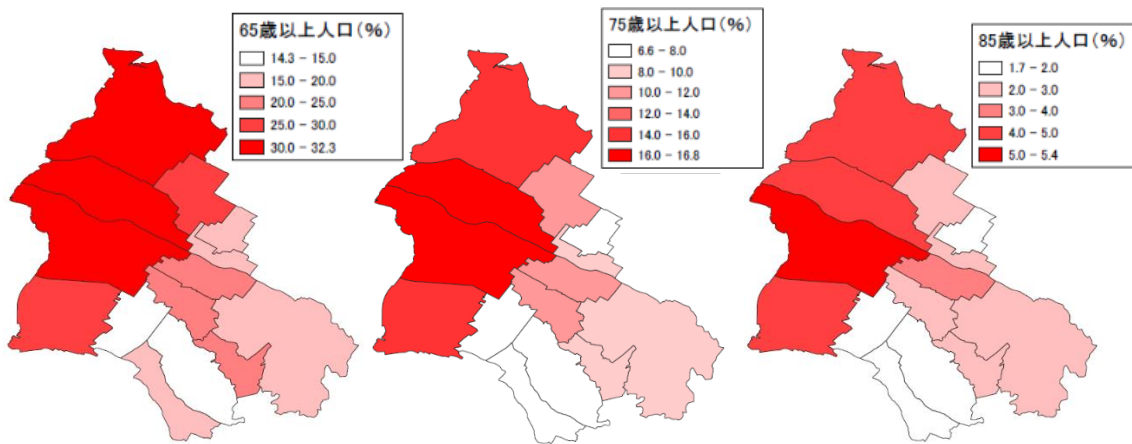


図2-16 65歳以上人口割合 図2-17 75歳以上人口割合 図2-18 85歳以上人口割合

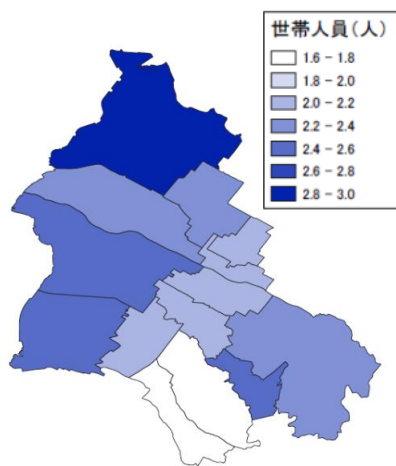


図2-19 1世帯当たり人員数

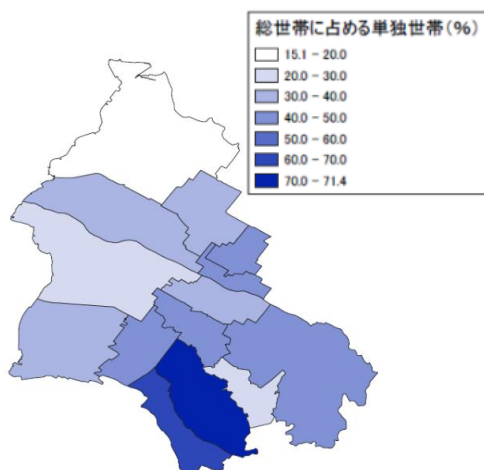


図2-20 総世帯に占める単独世帯割合

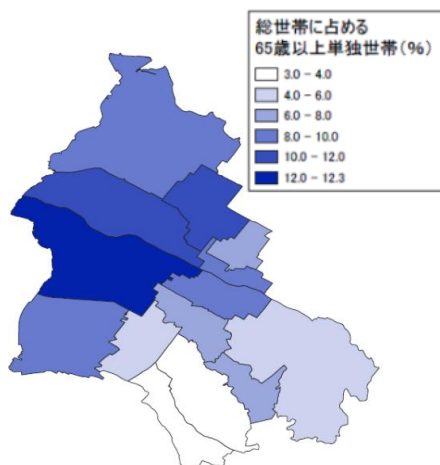


図2-21 総世帯に占める
65歳以上単独世帯割合

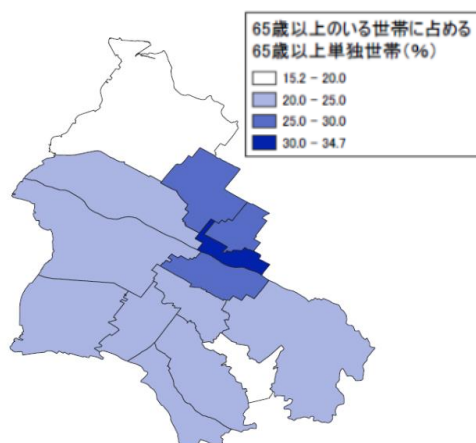


図2-22 65歳以上のいる世帯に占める
65歳以上単独世帯割合

ここまで本章を小括すると、本市の単独世帯は、大学が立地していることもあり、男女ともに20～24歳の割合が最も高い。しかしながらその推移をみると、やや減少傾向にあり、女性では85歳以上が最も増加している。本市の65歳以上の単独世帯は増加しており、本市の65歳以上人口の増加を踏まえると今後も増加が見込まれる。そこで、今後も増加が見込まれる単独世帯の高齢者について、その状況を把握することは重要であることから、次章でみていくこととする。

第3章 1人暮らし高齢者の意識や生活状況

1 草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の再分析

本市では、高齢者福祉計画の策定に当たり、施策の方向性を定める基礎資料とする一つとして、草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を実施している。本章では、項目により2017年度調査結果との比較を交えながら、主に2020(令和2)年度調査結果から1人暮らしの方の回答を抽出し、意識や生活状況等について、1人暮らし以外の方との比較分析を行った。

(1) 草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の概要

- ・調査対象：市内在住の65歳以上の市民のうち、要介護1～5の認定を受けていない方5,500名(無作為抽出)
- ・調査方法：郵送配布、郵送回収によるアンケート調査
- ・調査票：参考資料参照
- ・調査期間：2020(令和2)年度調査・・・2020(令和2)年1月17日から2月20日
2017年度調査・・・2017年1月26日から2月13日
- ・回収状況：2020(令和2)年度調査・・・回収数3,475件(回収率63.2%)
2017年度調査・・・回収数3,832件(回収率69.7%)

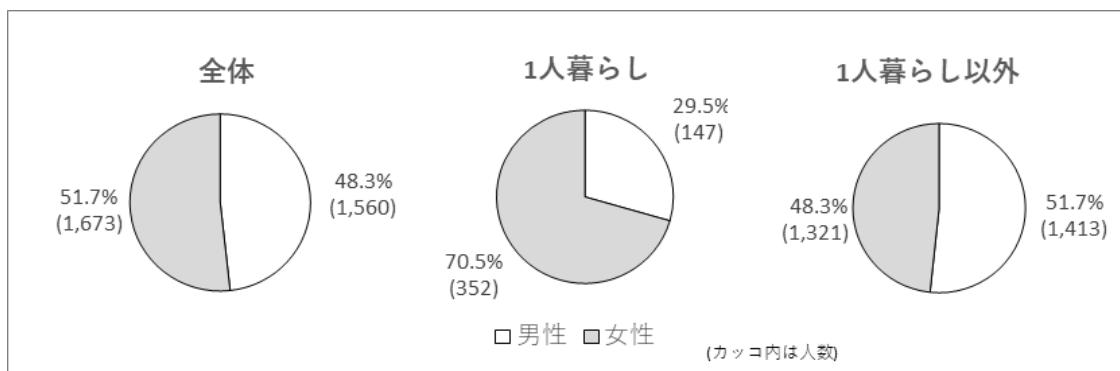
上記の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について、1人暮らしの方(2020(令和2)年度：533名、2017年度：580名)の回答を抽出し、1人暮らし以外の方(2020(令和2)年度：2,868名、2017年度：3,189名)と比較した。以下、特段指定しないものは2020(令和2)年度調査結果を記載する。調査項目として、下記のように再分析を行った。

- ①身体的要素 ・BMI ・健康状態 ・運動器機能低下 ・手段的日常生活動作
- ②精神的要素 ・うつ傾向 ・主観的幸福感 ・生きがい
- ③社会的要素 ・社会的役割 ・人との関わり ・閉じこもり傾向
- ④その他 ・経済的な状況 ・災害時の不安

(2) 回答者の属性

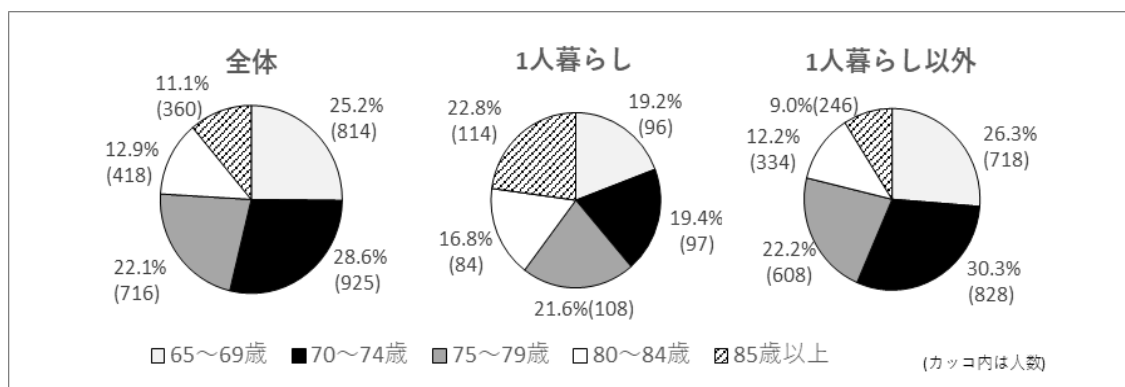
性別について、回答者全体および1人暮らし以外では、男女の割合がおおよそ同等で

あるのに対して、1人暮らしは女性が70.5%と女性の割合が高い(図3-1)。また、年齢について、回答者全体、および1人暮らし以外はおおよそ同じ傾向であるのに対して、1人暮らしは65～69歳の割合が低く、85歳以上の割合が高い(図3-2)。



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

図3-1 回答者の属性(性別)



(90歳以上の1人暮らし男性の回答者が少数なため、85歳以上に集約)

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

図3-2 回答者の属性(年齢別)

2 調査結果

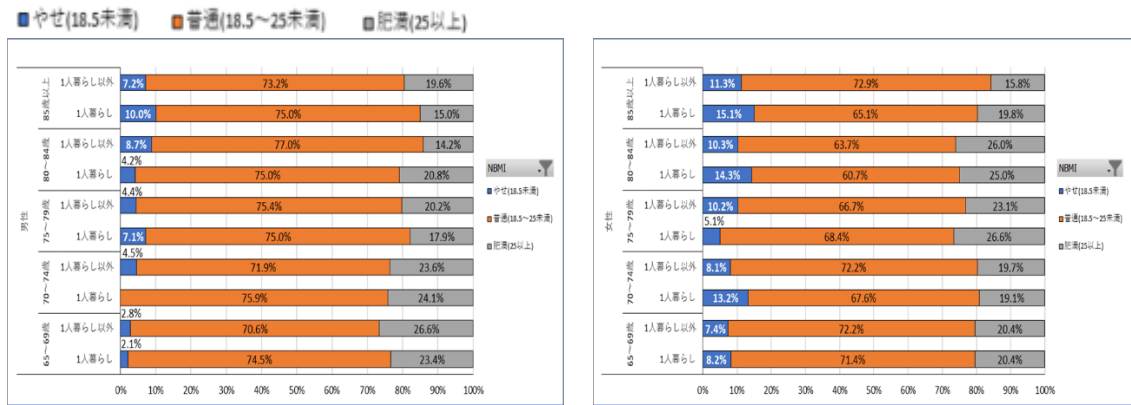
(1) 身体的要素

・BMI⁵

回答者全体では、やせ(18.5未満)の判定が7.2%、肥満(25以上)の判定が21.3%であ

⁵ Body Mass Index の略称で、肥満や低体重(やせ)の判定に用いる。体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)で算出し、18.5未満はやせ、25以上は肥満と判定。

った。年齢が上がるにつれ若干「やせ」が上昇している傾向がみられるものの、1人暮らしと1人暮らし以外に大きな違いはみられない(図3-3)。

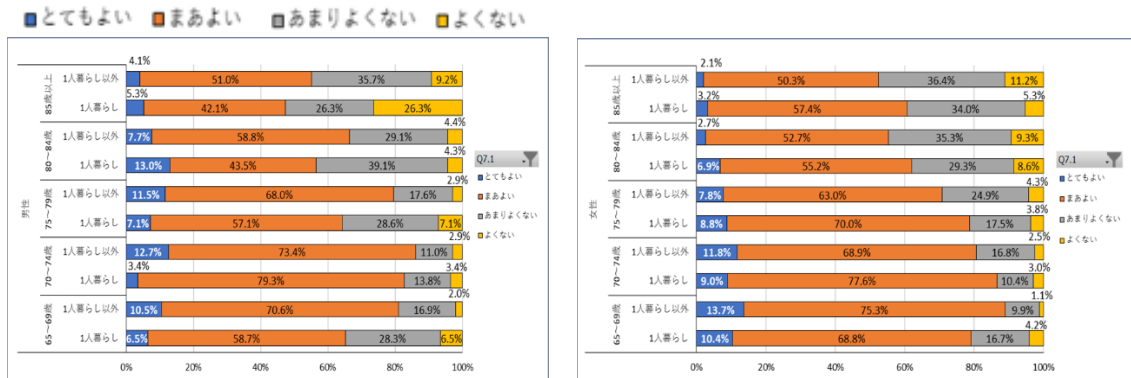


出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

図3-3 BMI

・健康状態

健康状態について、「まあよい」が最も回答割合が高い選択肢であった。その上で、男性は1人暮らしの方が「よくない」「あまりよくない」の選択割合が3.4~15.9%高い一方、女性は65~69歳を除くと1人暮らしの方が「とてもよい」「まあよい」の選択割合が5.9~8.1%高い(図3-4)。



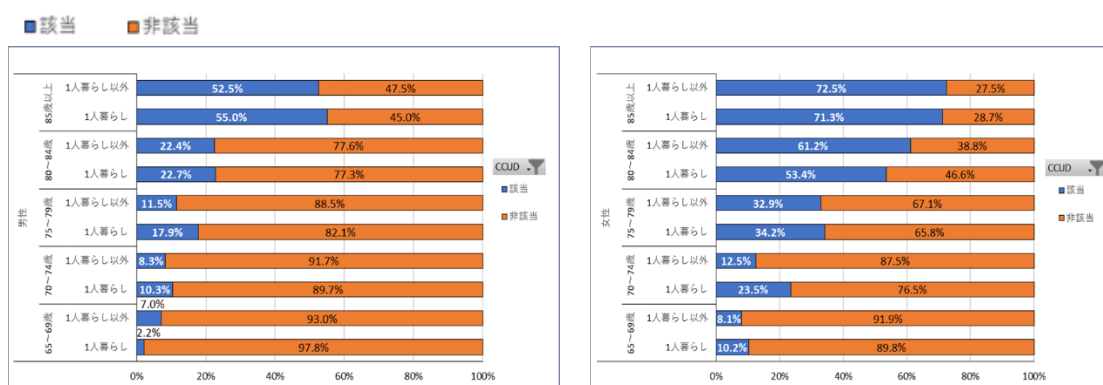
出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

図3-4 健康状態

・運動器機能低下

国の手引き⁶に基づき、運動器機能低下のリスク該当者⁷の判定を行った。値が高いほど運動器機能が低下していることを表す。

回答者全体ではリスク該当者が23.1%である中、男女ともに年齢が上がるほどリスク該当割合が上昇しており、男性と比べ女性の方が該当割合が高く、1人暮らしと1人暮らし以外に大きな違いはみられない(図3-5)。



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

図3-5 運動器機能低下

・手段的日常生活動作(IADL)

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標⁸に準じた設問に基づき⁹、活動的な日常生活を送るための能力、手段的日常生活動作(以下、IADL¹⁰という。)が低下している人の状況を把握する(図3-6)。

⁶ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き(厚生労働省 2019)

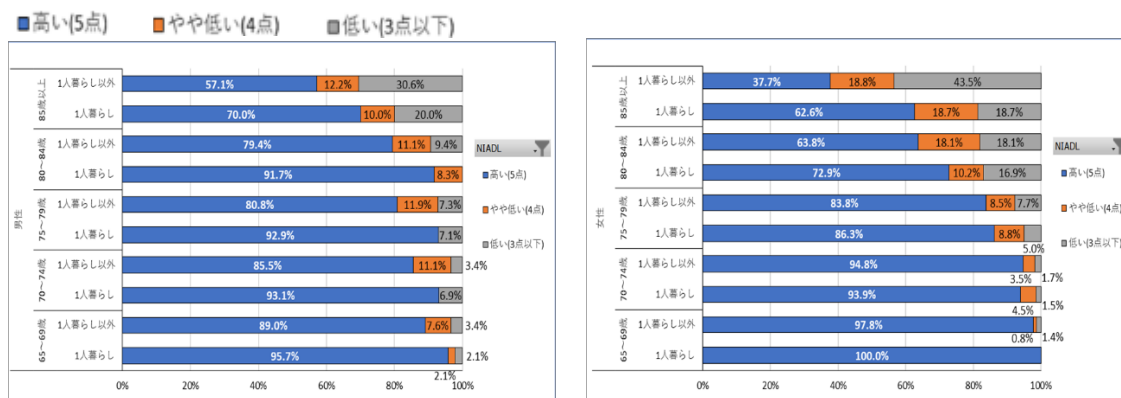
⁷ 「階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか」(できない)「椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか」(できない)「15分位続けて歩いていますか」(できない)「過去1年間に転んだ経験がありますか」(何度もある、1度ある)「転倒に対する不安は大きいですか」(とても不安である、やや不安である)の5項目のうち3項目以上に該当する回答の場合、運動器の機能低下のリスク該当者と判定。

⁸ 古谷野ほか1987、1992

⁹ 「バスや電車を使って1人で外出していますか」「自分で食品・日用品の買物をしていますか」「自分で食事の用意をしていますか」「自分で請求書の支払いをしていますか」「自分で預貯金の出し入れをしていますか」の設問に対し、「できるし、している」「できるけど、していない」の回答を1点する5点満点で評価し、5点を高い、4点をやや低い、3点以下を低いと判定。

¹⁰ 買い物、調整、洗濯、電話、薬の管理、財産管理、乗り物等の日常生活上の複雑な動作をさす。(厚生労働省参照 <https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/kenko21_11/s1.html> 2023.2.14 閲覧)

回答者全体では、17.2%が「やや低い」「低い」に該当している中、男女ともに年齢が上がるにつれて、「低い」の割合が上昇している。また、女性の70-74歳を除き、1人暮らしの方が1人暮らし以外と比べて、「低い」の割合は低くなっている。



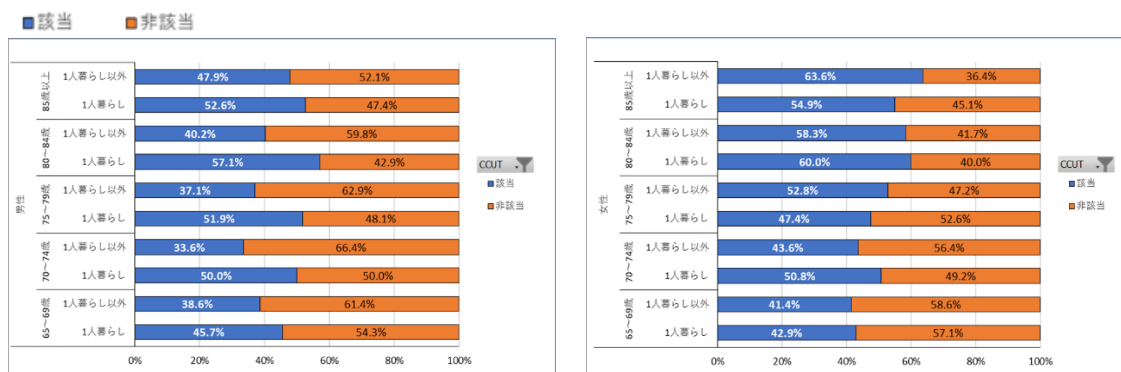
出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

図3-6 IADL

(2) 精神的要素

・ うつ傾向

国の手引きに基づき、うつ傾向のリスク該当者の判定¹¹を行った。回答者全体では、44.7%がうつ傾向のリスク該当者であった。男性では1人暮らしの方が4.8~16.9%リスク該当割合が高い結果であった(図3-7)。



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

図3-7 うつ傾向

¹¹ 「この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか」「この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか」のいずれかに「はい」と回答した場合、うつ傾向のリスク該当者と判定。

・主観的幸福感¹²

回答者全体の平均値は7.1点で、1人暮らしの平均値は6.7点、1人暮らし以外の平均点は7.2点であった。この1人暮らしの平均点は、日本全体での1人暮らし高齢者に関する意識調査結果の6.6点と近い値である(内閣府2015)。男女、年齢別にみると、女性の85～89歳を除き、男女ともに1人暮らしの方が平均値が小さい(表3-1)。

表3-1 主観的幸福感の平均値

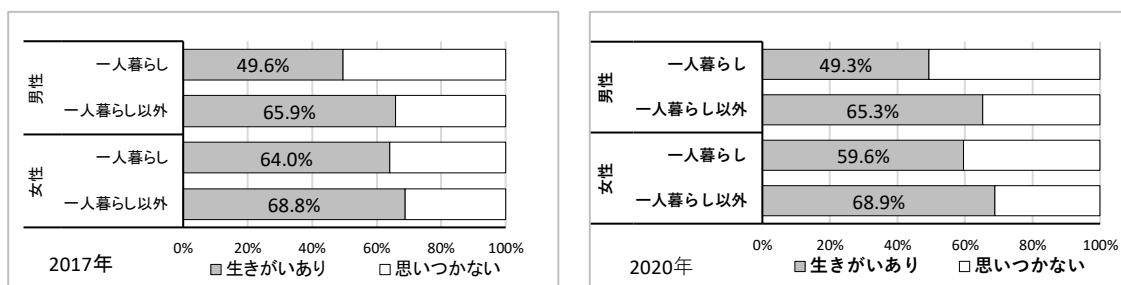
男性	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳以上
1人暮らし以外	7.1	7.2	7.1	7.0	6.8	6.8
1人暮らし	5.6	5.8	5.6	6.0	6.6	6.0

女性	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳以上
1人暮らし以外	7.5	7.4	7.2	7.0	6.7	7.5
1人暮らし	6.8	7.0	6.9	6.8	7.5	7.4

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

・生きがい

回答者全体では、「生きがいあり」が65.3%であった。男女共に1人暮らしの方が1人暮らし以外と比べ、「生きがいあり」の割合がやや低く、男性でよりその差が大きい結果であった(図3-8)。なお、2017年と2020(令和2)年で大きな違いはみられない。



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

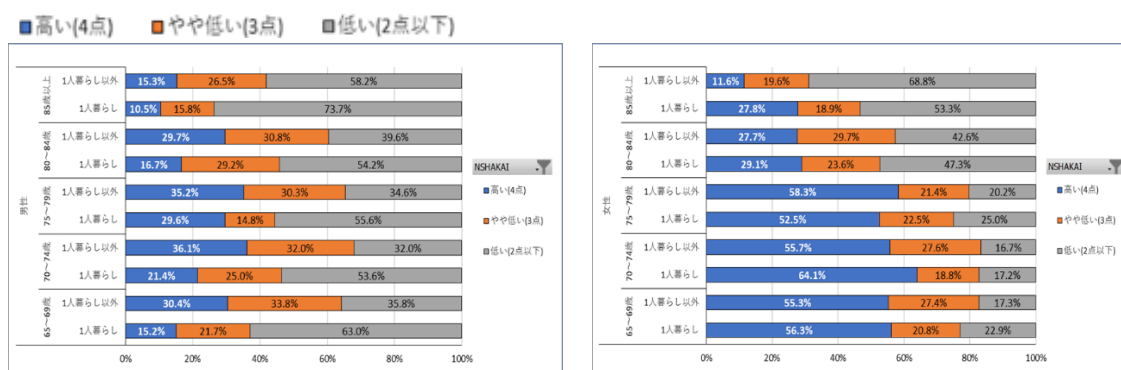
図3-8 生きがい

¹² とても不幸を0点、とても幸せを10点として、現在どの程度幸せか点数を記入してもらう設問。値が高いほど主観的幸福感が高いことを表す。

(3) 社会的要素

・ 社会的役割

老研式活動能力には、社会的な役割を果たす能力に関する設問が4問あり、「社会的役割」として尺度化されており、これが低下している人の状況を把握する¹³。この社会的役割の評価結果をみると、回答者全体では、「低い」の該当者が33.3%であった。男性は女性より「低い」の該当者割合が10.8%高く、男性はすべての年齢区分において、1人暮らし以外と比べて1人暮らしの方が「低い」の該当割合が14.6～27.3%高い結果であった(図3-9)。



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

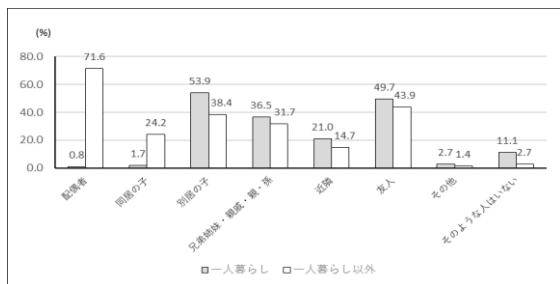
図3-9 社会的役割

・ 人との関わり

「心配事や愚痴を聞いてくれる人」「病氣や数日寝込んだときに看病や世話をしてくれる人」は誰か、のいずれの問いも、その対象となる相手がいる回答が多数を占める中、「そのような人はいない」の選択割合は1人暮らしの方が高い(図3-10、図3-11)。性別でみると、男性の1人暮らしで「そのような人はいない」の選択割合が高い。さらに、2017年と2020(令和2)年を比較すると女性と1人暮らし以外はあまり違いがみられない中、男性1人暮らしでは「そのような人はいない」の選択割合が、2017年より2020(令和2)年の方が高い(図3-12、図3-13)。内閣府による1人暮らし高齢者に関する意識調査(2015)結果において、「心配ごとや悩み事を相談したい相手」に「あてはまる人はいな

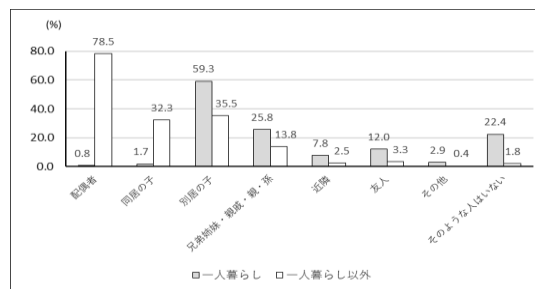
¹³ 「友人の家を訪ねていますか」「家族や友人の相談にのっていますか」「病人を見舞うことができますか」「若い人に自分から話かけることがありますか」の各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点で評価し、4点を高い、3点をやや低い、2点以下を低いと評価している。

い」の回答が男性27.8%、女性11.4%であり、「病気で何日か寝込んだ時に看病や世話を頼みたい相手に「あてはまる人はいない」の回答が、男性26.4%、女性13.6%であった。



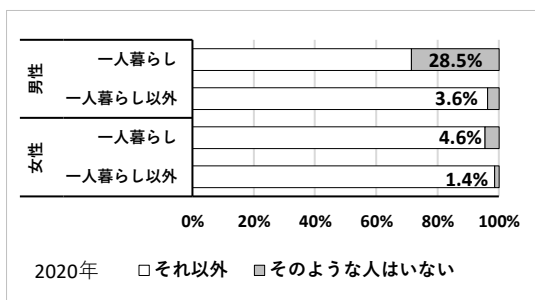
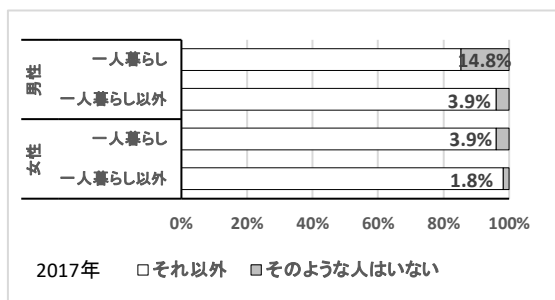
出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

図3-10 心配事や愚痴を聞いてくれる人
(複数回答)



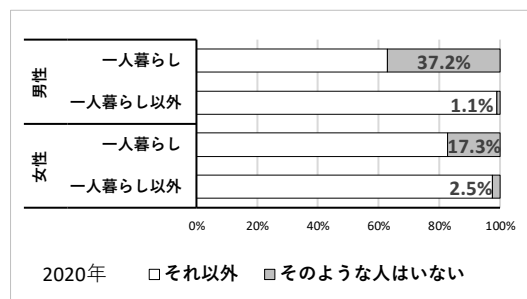
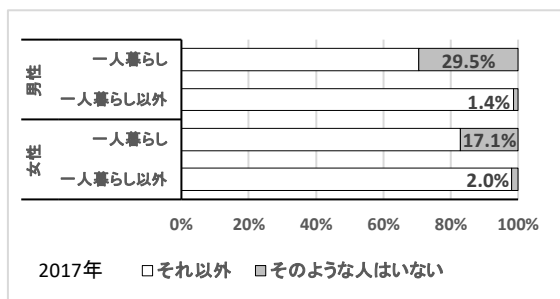
出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

図3-11 看病や世話をしてくれる人
(複数回答)



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

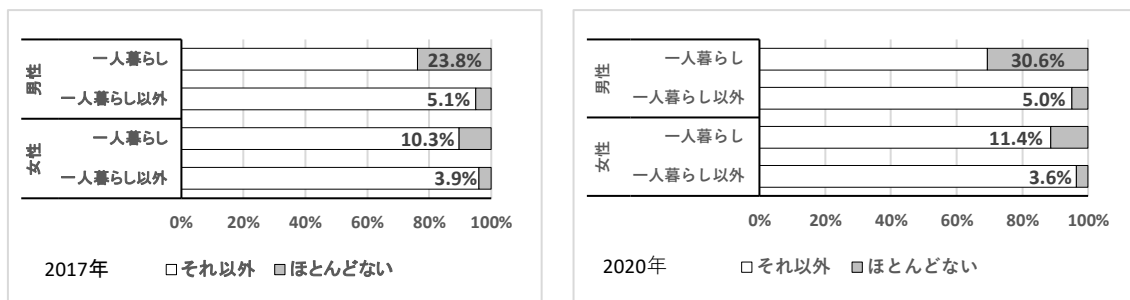
図3-12 心配事や愚痴を聞いてくれる人(性別、1人暮らし/1人暮らし以外)



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

図3-13 看病や世話をしてくれる人(性別、1人暮らし/1人暮らし以外)

また、「どなたかと食事をとにもする機会がありますか」の問いをみていくと、「ほとんどない」の回答が、男性1人暮らしでは約30%ある。また、2017(平成)年と2020(令和2)年を比較すると、女性や1人暮らし以外はほとんど変化がみられないのに対し、男性1人暮らしでは23.8%から30.6%に上昇している(図3-14)。



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

図3-14 食事をとにもする機会(性別、1人暮らし/1人暮らし以外)

・閉じこもり傾向

国の手引きに基づき、閉じこもり傾向のリスク該当者¹⁴を判定した。

回答者全体では、16.9%が閉じこもり傾向にあった。この割合は、一般に10~15%程度¹⁵といわれている。男女ともに年齢が上がるにつれて上昇傾向がみられた。1人暮らしと1人暮らし以外に大きな違いはみられない(図3-15)。

¹⁴ 「週に1回は外出していますか」(ほとんど外出しない、週1回)「昨年と比べて外出の回数が減っていますか」(とても減っている、減っている)の2項目とも該当する選択肢を回答した場合、閉じこもり傾向のリスク該当者と判定。

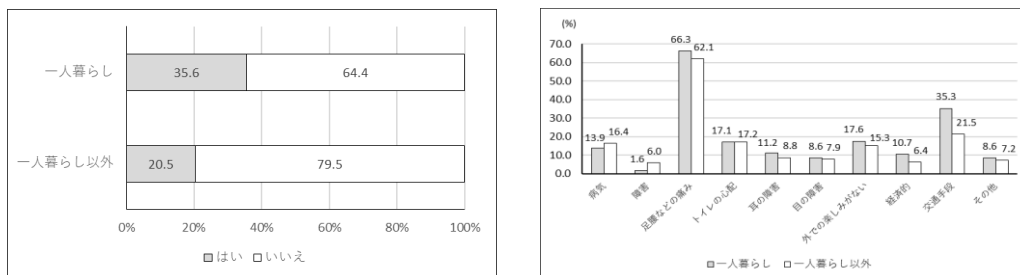
¹⁵ (厚生労働省の基本チェックリストによる、外出頻度が週1回未満)65歳以上全体では10~15%程度、75歳以上では20%を超えるといわれている。(若山2015)



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

図3-15 閉じこもり傾向

閉じこもりに関連して、外出に関する問いをみていくと、「外出を控えていますか」の問いについては、「いいえ」の回答割合が高いものの、「はい」と回答した割合について、1人暮らしの方が1人暮らし以外と比べて約15%高い(図3-16左)。



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

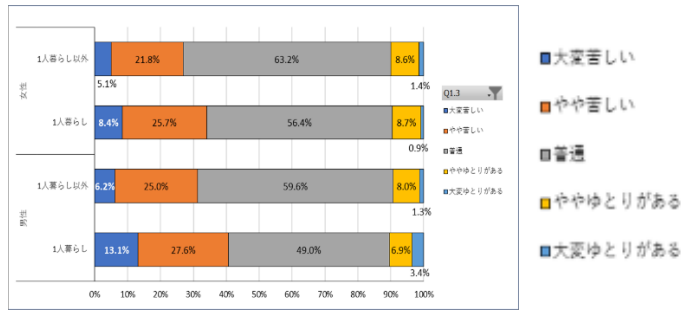
図3-16 外出を控えているかどうか(左)、その理由(複数回答)(右)

外出を控えている理由として、「足腰などの痛み」が最も選択割合が高い中、1人暮らしの方が選択割合が高く、その差が大きい選択肢は「交通手段がない」であった(図3-16右)。

(4) その他

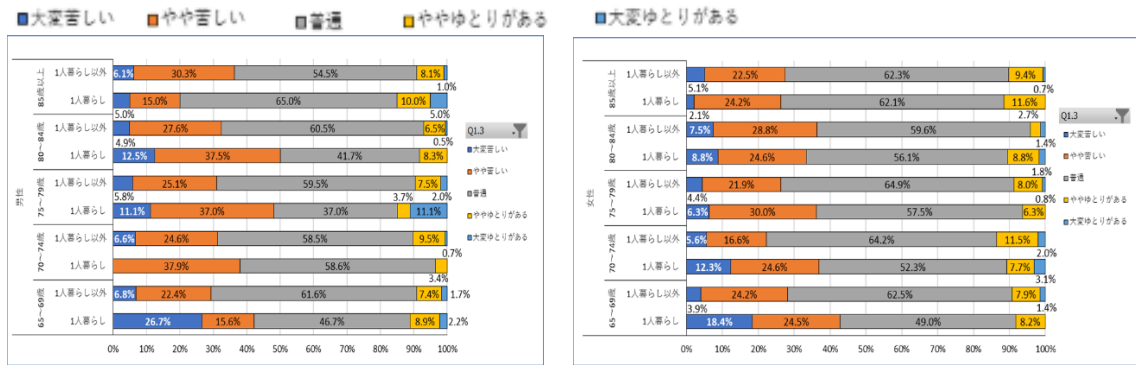
・暮らしの経済的な状況

暮らしの経済的な状況については、「ふつう」の選択が最も多いものの、1人暮らしの方が「大変苦しい」の選択割合が女性で3.3%、男性で6.9%高い(図3-17、図3-18)。



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

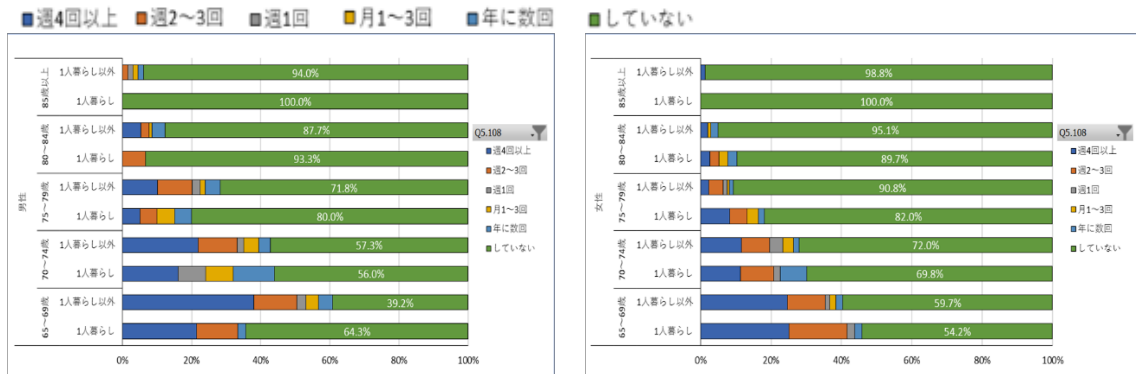
図3-17 暮らしの経済的状況



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

図3-18 暮らしの経済的状況

収入のある仕事の状況をみると、男女ともにどの年齢層でも収入のある仕事を「していない」が最も選択割合が高い(図3-19)。男性は1人暮らし以外の方が、女性は1人暮らしの方が仕事をしている割合が高く、いずれも年齢が上がるにつれて減少している。

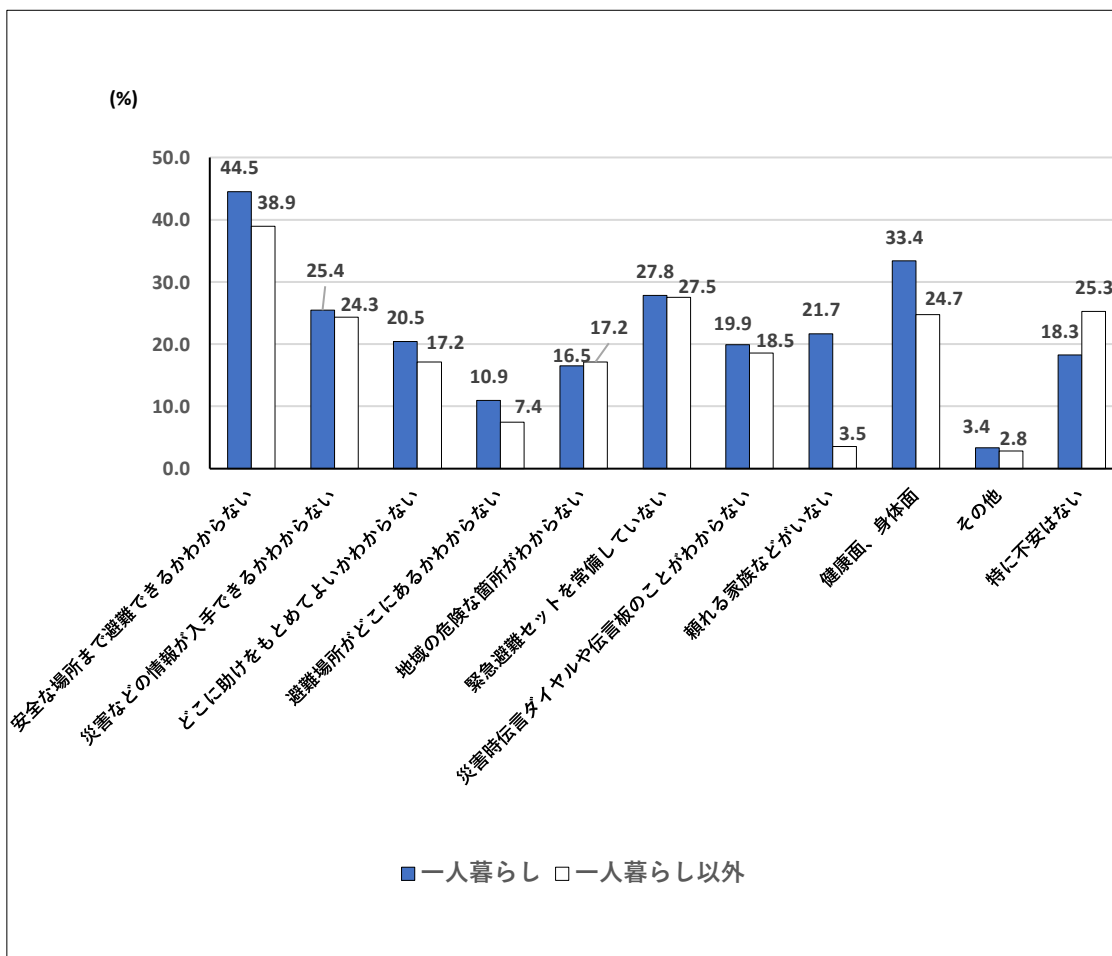


出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

図3-19 収入のある仕事

・災害時の不安

災害時の不安について、「安全な場所まで避難できるかわからない」が最も選択割合が高い中、1人暮らしと1人暮らし以外で選択割合の差が最も大きい選択肢は「頼れる家族などがない」であった(図3-20)。



出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

図3-20 災害時の不安(複数回答)

3 多変量解析結果

第2節で得た結果をより詳細にみていくため、多変量解析¹⁶を行った。

(1) 運動器機能低下(ILUD)

表3-2のとおり、多変量解析(順序ロジスティック回帰モデル)の結果、男性に比べ、女性ではILUDスコア¹⁷が高くなることを認めた。また、高齢ほどILUDスコアが高くなることを認めた。そして、年齢、性別、要介護度、日常生活圏域¹⁸などの交絡要因¹⁹を補正した状態でのILUDスコアに対する、1人暮らしの影響は統計学的に有意ではないことを認めた。

表3-2 ILUDに影響を与える要因の検討

	OR	95%CI	P-value
性別			
男性	1.000	reference	
女性	2.027	1.767 , 2.325	<0.001
年齢			
65-69歳	1.000	reference	
70-74歳	1.255	1.045 , 1.508	0.015
75-79歳	1.881	1.546 , 2.290	<0.001
80-84歳	2.896	2.274 , 3.688	<0.001
85-89歳	2.881	2.125 , 3.908	<0.001
90歳以上	4.997	3.407 , 7.330	<0.001
要介護度			
要支援1	1.000	reference	
要支援2	2.479	1.853 , 3.318	<0.001
事業対象者	0.513	0.201 , 1.314	0.164
受けていない	0.127	0.099 , 0.163	<0.001
わからない	0.460	0.250 , 0.847	0.013
日常生活圏			
高穂	1.000	reference	
新堂	1.117	0.890 , 1.401	0.341
松原	1.145	0.925 , 1.419	0.213
老上	1.086	0.857 , 1.376	0.496
玉川	1.134	0.900 , 1.428	0.287
草津	0.989	0.807 , 1.213	0.918
一人暮らし			
一人暮らし以外	1.000	reference	
一人暮らし	1.071	0.890 , 1.289	0.469

多変量 順序ロジスティック回帰分析
OR: オッズ比; 95%CI: 95%信頼区間

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

¹⁶ 統計ソフトはSPSSを使用。なお、多変量解析に投入した因子について、明確な共線性は認めなかったことから、共線性の側面からは多変量モデルの構築が妥当である。

¹⁷ スコアが高いほど、身体を動かすのに働いている組織である運動器の機能が低下していることを表す。

¹⁸ 中学校区(6学区)

¹⁹ 結果に影響を与えるもの、要因と関係があるもの、要因と結果の中間因子ではないもののこと。

(2) 手段的日常生活動作 (IADL)

表3-3のとおり、多変量解析(順序ロジスティック回帰モデル)の結果、男性に比べ、女性ではIADLスコア²⁰が高くなることを認めた。また、高齢ほどIADLスコアが低くなることを認めた。そして、年齢、性別、要介護度、日常生活圏域などの交絡要因を補正した状態にて、1人暮らし以外に比べ、1人暮らしではIADLスコアが高くなることを認めた。

表3-3 IADL点数に影響を与える要因の検討

	OR	95%CI	P-value
性別			
男性	1.000	reference	
女性	1.794	1.445 , 2.226	<0.001
年齢			
65-69歳	1.000	reference	
70-74歳	0.638	0.448 , 0.908	0.013
75-79歳	0.459	0.323 , 0.653	<0.001
80-84歳	0.372	0.254 , 0.545	<0.001
85-89歳	0.268	0.175 , 0.411	<0.001
90歳以上	0.097	0.060 , 0.156	<0.001
要介護度			
要支援1	1.000	reference	
要支援2	0.340	0.249 , 0.464	<0.001
事業対象者	1.191	0.388 , 3.660	0.760
受けていない	4.842	3.609 , 6.497	<0.001
わからない	1.583	0.761 , 3.292	0.219
日常生活圏			
高穂	1.000	reference	
新堂	0.869	0.621 , 1.217	0.414
松原	0.802	0.588 , 1.094	0.164
老上	1.265	0.867 , 1.844	0.222
玉川	1.195	0.836 , 1.709	0.327
草津	1.302	0.950 , 1.783	0.101
一人暮らし			
一人暮らし以外	1.000	reference	
一人暮らし	2.292	1.700 , 3.090	<0.001

多変量 順序ロジスティック回帰分析

OR: オッズ比; 95%CI: 95%信頼区間

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

²⁰ スコアが高いほど、乗り物や買い物、財産の管理等日常生活上の複雑な動作ができていることを表す。

(3) 主観的幸福感

表3-4のとおり、多変量解析(順序ロジスティック回帰モデル)の結果、男性に比べ、女性では主観的幸福感が高くなる(主観的幸福感上昇に対するオッズ比²¹が高くなる)ことを認めた。また、85歳以上になると主観的幸福感が高くなることを認めた。そして、年齢、性別、要介護度、日常生活圏域などの交絡要因を補正した状態にて、1人暮らし以外に比べ、1人暮らしでは主観的幸福感が低くなることを認めた。

表3-4 主観的幸福観に影響を与える要因の検討

	OR	95%CI	P-value
性別			
男性	1.000	reference	
女性	1.576	1.384 , 1.794	<0.001
年齢			
65-69歳	1.000	reference	
70-74歳	1.080	0.914 , 1.277	0.367
75-79歳	1.017	0.847 , 1.221	0.854
80-84歳	1.091	0.867 , 1.374	0.457
85-89歳	1.377	1.014 , 1.870	0.040
90歳以上	2.056	1.384 , 3.055	<0.001
要介護度			
要支援1	1.000	reference	
要支援2	0.619	0.461 , 0.833	0.002
事業対象者	1.868	0.678 , 5.149	0.227
受けていない	1.731	1.369 , 2.189	<0.001
わからない	0.617	0.331 , 1.152	0.130
日常生活圏			
高穂	1.000	reference	
新堂	0.955	0.773 , 1.181	0.674
松原	1.051	0.855 , 1.292	0.637
老上	1.036	0.829 , 1.294	0.759
玉川	0.904	0.727 , 1.125	0.366
草津	0.955	0.788 , 1.157	0.639
一人暮らし			
一人暮らし以外	1.000	reference	
一人暮らし	0.627	0.521 , 0.754	<0.001

多変量 順序ロジスティック回帰分析

OR: オッズ比; 95%CI: 95%信頼区間

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

²¹ ある疾患等のおこりやすさを2つの群で比較する場合に用いる統計指標の一つ。1より大きいことは発生率が大きいことを、1より小さいことは発生率が小さいことを意味する。(厚生労働省 生活習慣病予防のための健康情報サイト参照)

(4) うつ傾向

表3-5のとおり、多変量解析(2項ロジスティック回帰モデル)の結果、男性に比べ、女性でうつ傾向該当になるオッズ比が高くなることを認めた。また、年齢、性別、要介護度、日常生活圏域などの交絡要因を補正した状態でのうつ傾向該当になることに対する、1人暮らしの影響は統計学的に有意ではないことを認めた。

表3-5 うつ傾向該当となる要因の検討

		OR	95%CI	P-value
性別	男性	1.000	reference	
	女性	1.339	1.151 , 1.557	<0.001
年齢	65-69歳	1.000	reference	
	70-74歳	0.951	0.780 , 1.160	0.621
	75-79歳	1.025	0.826 , 1.271	0.823
	80-84歳	1.076	0.823 , 1.408	0.593
	85-89歳	0.900	0.631 , 1.285	0.562
	90歳以上	1.014	0.649 , 1.586	0.950
要介護度	要支援1	1.000	reference	
	要支援2	2.020	1.420 , 2.873	<0.001
	事業対象者	0.630	0.227 , 1.746	0.374
	受けていない わからない	0.523	0.401 , 0.683	<0.001
日常生活圏	高穂	1.000	reference	
	新堂	1.073	0.835 , 1.378	0.582
	松原	0.952	0.748 , 1.210	0.687
	老上	0.946	0.727 , 1.232	0.683
	玉川	1.132	0.877 , 1.462	0.340
	草津	0.926	0.737 , 1.163	0.508
一人暮らし	一人暮らし以外	1.000	reference	
	一人暮らし	1.137	0.922 , 1.404	0.230

多変量 2項ロジスティック回帰分析

OR: オッズ比; 95%CI: 95%信頼区間

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

(5) 社会的役割

表3-6のとおり、多変量解析(順序ロジスティック回帰モデル)の結果、男性に比べ、女性では社会的役割点数が高くなることを認めた。また、75-79歳で社会的役割点数が一度高くなるが、85歳以上では有意に低くなることを認めた。そして、日常生活圏域が「老上」「松原」では社会的役割点数が高くなることを認めた。最後に、年齢、性別、要介護度、日常生活圏域などの交絡要因を補正した状態での社会的役割点数に対する1人暮らしの影響は、統計学的に有意ではないことを認めた。

表3-6 社会的役割点数に影響を与える要因の検討

	OR	95%CI	P-value
性別			
男性	1.000	reference	
女性	2.412	2.104 , 2.764	<0.001
年齢			
65-69歳	1.000	reference	
70-74歳	1.168	0.979 , 1.392	0.084
75-79歳	1.230	1.014 , 1.491	0.036
80-84歳	0.861	0.682 , 1.087	0.208
85-89歳	0.673	0.495 , 0.914	0.011
90歳以上	0.294	0.202 , 0.428	<0.001
要介護度			
要支援1	1.000	reference	
要支援2	0.481	0.359 , 0.644	<0.001
事業対象者	2.292	0.878 , 5.981	0.090
受けていない	3.069	2.420 , 3.892	<0.001
わからない	0.789	0.434 , 1.433	0.436
日常生活圏			
高穂	1.000	reference	
新堂	1.076	0.864 , 1.339	0.514
松原	1.506	1.217 , 1.863	<0.001
老上	1.407	1.112 , 1.779	0.004
玉川	1.065	0.851 , 1.333	0.580
草津	1.021	0.837 , 1.245	0.836
一人暮らし			
一人暮らし以外	1.000	reference	
一人暮らし	0.862	0.714 , 1.041	0.123

多変量 順序ロジスティック回帰分析

OR: オッズ比; 95%CI: 95%信頼区間

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

(6)閉じこもり傾向

表3-7のとおり、多変量解析(2項ロジスティック回帰モデル)の結果、高齢ほど閉じこもり該当例になるオッズ比が高くなることを認めた。また、日常生活圏域が「新堂」では閉じこもり傾向該当となるオッズ比が高くなることを認めた。そして、年齢、性別、要介護度、日常生活圏域などの交絡要因を補正した状態での閉じこもり傾向該当となることに対する1人暮らしの影響は統計学的に有意ではないことを認めた。

表3-7 閉じこもり傾向該当となる要因の検討

	OR	95%CI	P-value
性別			
男性	1.000	reference	
女性	1.146	0.917 , 1.432	0.232
年齢			
65-69歳	1.000	reference	
70-74歳	1.229	0.862 , 1.752	0.255
75-79歳	1.468	1.022 , 2.109	0.038
80-84歳	2.695	1.840 , 3.947	<0.001
85-89歳	2.200	1.411 , 3.432	<0.001
90歳以上	5.792	3.472 , 9.662	<0.001
要介護度			
要支援1	1.000	reference	
要支援2	1.196	0.856 , 1.672	0.293
事業対象者 受けていない	0.247	0.053 , 1.147	0.074
わからない	1.339	0.668 , 2.683	0.411
日常生活圏			
高穂	1.000	reference	
新堂	1.638	1.144 , 2.346	0.007
松原	1.149	0.813 , 1.625	0.431
老上	1.077	0.724 , 1.601	0.714
玉川	1.228	0.842 , 1.793	0.286
草津	0.834	0.592 , 1.176	0.301
一人暮らし			
一人暮らし以外	1.000	reference	
一人暮らし	0.858	0.645 , 1.140	0.290

多変量 2項ロジスティック回帰分析
OR: オッズ比; 95%CI: 95%信頼区間

出所：草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(2020)

4 1人暮らし回答者の特徴

(1)全体

手段的日常生活動作(IADL)のスコアについては、1人暮らし回答者の方が高い、つまり日常生活上の複雑な動作ができていることがわかった。ただし、IADLが高いことから1人暮らしが出来ているという可能性も多いに考えられ、因果関係は不明である。

また、主観的幸福感については、1人暮らし回答者の方が低いことがわかった。

運動器機能低下およびうつ傾向、社会的役割、閉じこもり傾向においては、1人暮らしについて統計学的な差は認められなかった。

(2)男女別

男性の1人暮らしの回答者数が少ない点(女性の1人暮らし回答者の半分以下)には留意する必要があるが、以下のような特徴がみられた。

相談相手や看病してくれる人が「いない」割合が、1人暮らしの男性で高く、1人暮らし男性は共食の機会も「ほとんどない」が3割を占める。そして、これらの傾向は2017年と比べて2020(令和2)年で上昇している。このことから、1人暮らしの男性は、女性や1人暮らし以外と比べて、人とのつながりが少ないことが考えられる。この傾向は、今回利用した調査(2020(令和2)年1月)後から起こったコロナ禍によって、より顕著になっているのではないかと危惧される。

第4章 草津市における1人暮らし高齢者の課題と今後に向けた方向性

前章での再分析結果における1人暮らし回答者の特徴からみえてきた課題と今後に向けて検討する。

1 みえてきた課題

(1) 主観的幸福感

今回の再分析においては、男性の回答者および1人暮らしの回答者の方が主観的幸福感が低くなることが明らかとなった。

今回の再分析と同様の傾向がみられた「1人暮らし高齢者に関する意識調査」(内閣府2015)では、主観的幸福感は男性より女性で高く、80歳以上で高く、会話の頻度が高いほど高くなることが報告されている。また、1人暮らし高齢者の主観的幸福感には、会話の頻度と経済的な暮らし向きが影響するとの報告がある(大橋2018)。会話を増やすような働きかけによって主観的幸福感は高められることができると考えられており、会話の頻度には外出の頻度が関係していることから、外出を増やすよう支援することで、会話を増やし、間接的に主観的幸福感を高められるのではないかと指摘されている。会話の頻度については、後述する支援にも大きく影響する要因であると考えられる。

(2) 男性をターゲットとした孤立対策

前章での再分析の結果、相談相手や看病してくれる人、生きがいといった項目も男性1人暮らしでは「いない」「ない」の割合が、女性・1人暮らし以外と比べて高く、この割合は2017(平成29)年調査より2020(令和2)年調査で上昇していることがわかった。

1人暮らし高齢者への支援については、平均寿命が長い女性の方が多いため、これまで女性の1人暮らしを主な対象として実施されてきた。そのため、自治体の高齢者の孤立対策は意図せずとも女性を想定した設計になりがちであり、少数である男性に対して効果的な手法とはなっていない可能性があると言われている(岡元2022)。

内閣官房の「人々のつながりに関する基礎調査結果(2022)」によると、女性より男性の方が友人・知人のネットワークは薄いとされ、コミュニケーションの習慣は男女差が大きい。また、高齢の単身女性は近所とのつながりを持つ人の割合が男性より高いといわれている(藤森2019)。1人暮らし高齢者に限ってみると、男性は、知人との対面の会

話は女性の半分未満、電話は3分の1未満、電子メール等は5分の1未満である。別居の家族とのコミュニケーションの実施率も、男性は女性の4分の1未満にとどまり、加えて、高齢男性は女性に比べて、「他人に頼らず自分で解決したい」「他人の援助や助言はあまり役に立たない」と考える傾向が強い(日本総研 2021)。これらの調査結果に表れているように、一般的に男性は女性よりも会話や交流が少なく、人に頼りたくないという気持ちが強い傾向がみられるため、民生委員やボランティア等に対して悩みを打ち明けるといった従来型の手法が通じない場合がある。したがって、これまでの支援策に加えて、このような男性の特性を踏まえた孤立解消策が必要との指摘がある(岡元2022)。本市においても学区・地区別の実態をさらに把握した上で、男性の特性を踏まえた、人とのつながりに寄与する取組みが求められるのではないだろうか。

2 今後に向けて

人々のつながりに関する基礎調査(内閣官房 2022b)において、孤独を感じている割合について単身者を男女別にみると男性の方が高く、男女共同参画白書(内閣府 2022b)によると、20代・30代の男性の4人に1人は高齢になって孤立してしまう、と回答しており、男性は将来の孤立に関する不安を持っていることが示されている。これらの調査結果から、孤立の問題は高齢期になって突然発生するものではなく、それ以前から潜在的に問題が存在しているといえる。そのため、1人暮らしの男性高齢者への支援とともに、多世代を対象として、孤立に対して取組むことが求められる。さらにコロナ禍があったことで、社会的分断がより顕著になっているため、孤立については、早期に実態を解明する必要があると考える。

おわりに

本市において、人口を上回る増加となっている世帯数の中でも、最も増加率の高い単独世帯について状況を確認した。

本市では依然として19-24歳が最も単独世帯の割合が高いものの、増加率が最も高いのは女性では85歳以上であり、高齢者の単独世帯も増加しているが、その増加状況は地域によって状況が異なることがわかった。

本調査研究にて取り上げた介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、対象者に要介護者を含まないため、必ずしも本市の65歳以上の市民の総意とは言い切れない。また、調査時期が2020(令和2)年1月のため、その後の新型コロナウイルス感染症の流行により、1人暮らし高齢者を取り巻く環境が大きく変化していることが考えられる。今後も状況を注視することが重要である。

また、本報告書ではサンプル数が少なく一部の項目での掲載に留まったが、学区・地区によっても1人暮らし高齢者の状況や意識に差がある可能性も十分に考えられ、今後、より詳細な調査が求められる。

ライフスタイルとして「1人」を意図的に選択している人と、社会から孤立している人を分けることは非常に困難である。それでも、今回1人暮らしの男性高齢者で浮かび上がったつながりの少なさについては、新型コロナウイルス感染症の流行により幅広い世代で課題となっていることが懸念されることから、本市における実態の把握が必要であろう。

◎関係者一覧

○アドバイザー

清家 理 立命館大学スポーツ健康科学部教授(草津未来研究所 運営委員)

○草津未来研究所

角 一朗 草津市総合政策部 草津未来研究所 副所長

山本 一成 草津市総合政策部 草津未来研究所 統括研究員

田中 祥温 草津市総合政策部 草津未来研究所 参与

橋本 千秋 草津市総合政策部 草津未来研究所 研究員(主担当)

参考文献

- 阿部彩(2021)「日本の相対的貧困率の動向：2019年国民生活基礎調査を用いて」
〈<https://www.hinkonstat.net/>〉(2023. 1. 31 閲覧)
- 大橋美幸(2018)「1人暮らし高齢者の幸福度からの支援の検討」『函館大学論究』第49
輯第2号
〈<https://core.ac.uk/download/pdf/229868762.pdf>〉(2023. 1. 31 閲覧)
- 岡元真希子(2022a)「エビデンスに基づく孤独・孤立政策に向けてー「孤独・孤立の実
態把握に関する全国調査」結果よりー」『リサーチフォーカス』No. 2022-006
〈<https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=102635>〉(2023. 1. 31 閲覧)
- 岡元真希子(2022b)「高齢者の孤独・孤立対策にどう取り組むか」『JRIレビュー』Vol. 2
No. 97
〈<https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=102203>〉(2023. 1. 31 閲覧)
- 草津市(2021)「第6次草津市総合計画」
〈[https://www.city.kusatsu.shiga.jp/shisei/seisaku/sogokeikaku/rokujisoukei/kihonkei
kaku1/sogokeikaku.html](https://www.city.kusatsu.shiga.jp/shisei/seisaku/sogokeikaku/rokujisoukei/kihonkei
kaku1/sogokeikaku.html)〉(2023. 2. 22 閲覧)
- 国立社会保障・人口問題研究所(2018)「日本の世帯数の将来推計」
〈https://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2017/pp_zenkoku2017.asp〉
(2023. 1. 31 閲覧)
- さがみはら都市みらい研究所(2019)「1人暮らし高齢者の生活と意識に関する調査研究」
〈[https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/00
1/003/919/cyousa_201905.pdf](https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/00
1/003/919/cyousa_201905.pdf)〉(2023. 1. 31 閲覧)
- 滋賀県毎月人口推計調査
〈<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/tokei/jinkou/maitsuki/>〉(2023. 1. 31 閲覧)
- 国勢調査 政府統計の総合窓口(e-Stat)
〈<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00200521>〉
(2023. 1. 31 閲覧)
- 総務省統計局「令和2年国勢調査 人口等基本集計結果 結果の概要」
〈<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>〉(2023. 1. 31 閲覧)

- とよなか都市創造研究所(2019)「豊中市の単身世帯の生活に関する調査研究 I」
〈<https://www.tium-toyonaka-osaka.jp/publication/report.html>〉(2023. 2. 22閲覧)
- 内閣官房(2022a)「孤独・孤立対策の重点計画(令和4年改定)」
〈https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/juten_keikaku/r04/index.html〉(2023. 1. 31 閲覧)
- 内閣官房(2022b)「令和3年人々のつながりに関する基礎調査結果」
〈https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodoku_koritsu_taisaku/zittai_tyosa/zenkoku_tyosa.html〉(2023. 1. 31閲覧)
- 内閣府(2022a)「令和4年版高齢社会白書」
〈<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>〉(2023. 1. 31閲覧)
- 内閣府(2022b)「令和4年版男女共同参画白書」
〈https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r04/zentai/index.html〉
(2023. 2. 22 閲覧)
- 内閣府(2015)「1人暮らし高齢者に関する意識調査」
〈<https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h26/kenkyu/zentai/index.html>〉
(2023. 1. 31閲覧)
- 日本総研(2021)「高齢期の意思決定を支援するための情報技術を活用した接点構築に関する調査研究事業」(令和2年度厚生労働省老人保健健康増進等事業)
〈<https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=38656>〉(2023. 1. 31閲覧)
- 藤森克彦(2010)「単身急増社会の衝撃」日本経済新聞出版社
- 藤森克彦(2017)「単身急増社会の希望」日本経済新聞出版社
- 藤森克彦(2018)「高齢単身女性と貧困」『学術の動向』2018年5月号(第23巻)
〈https://www.jstage.jst.go.jp/article/tits/23/5/23_5_10/_pdf/-char/ja〉(2023. 1. 31 閲覧)
- 藤森克彦(2019)「単身世帯の増加と求められる社会政策の強化」『月刊DIO』No. 350
〈<https://www.rengo-soken.or.jp/dio/2019/09/170958.html>〉(2023. 1. 31 閲覧)

参考資料

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 調査票

草津市 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
(令和元年度)

日頃は草津市政の推進につきまして、御理解、御協力をいただき厚くお礼申し上げます。さて、本市では、高齢者が住み慣れた地域で安心して自立した生活が送れるよう「草津あんしんいきいきプラン」(高齢者福祉計画・介護保険事業計画)を策定し、きめ細やかな高齢者福祉施策の計画的な推進に努めているところで、令和3年度から令和6年度を計画期間とする「草津あんしんいきいきプラン第8期計画」の策定にあたり、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」を実施いたします。

この調査では、生活状況やお身体のこと等をお伺いし、計画策定のための基礎資料にさせていただきます。つきましては、当該調査の趣旨を御理解いただき、**2月20日(木)まで**に御回答いただきますようお願い申し上げます。

令和2年1月

草津市長 櫻川 渉

記入日	令和 年 月 日
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。	
1. 御本人が記入	
2. 御家族が記入 (御本人からみた続柄 _____)	
御本人が回答できない理由を記入してください(1つに○)	
1. 身体的状況 2. 施設入居・入所 3. 転居 4. その他 ()	
3. その他	
※以下は御本人の情報を記入してください(それぞれ1つに○)	
性 別	1. 男 2. 女
年 齢	1. 65歳~69歳 2. 70歳~74歳 3. 75歳~79歳 4. 80歳~84歳 5. 85歳~89歳 6. 90歳以上
要 介 護 度	1. 要支援1 2. 要支援2 3. 事業対象者 4. 受けていない 5. わからない

草津市 長寿いきがい課 長寿政策係

調査票への記入にあたって

- 65歳以上で要介護認定(要介護1~5)を受けておられない方から無作為に5,500人を選んで御協力をお願いしております。
- 御本人の記入が難しい場合、御家族などの代筆による御回答をお願いします。
- 各項目で該当する数字に○をつけてください。
- 調査票記入後は、3つ折りにし同封の返信用封筒に入れて、**2月20日(木)**までに最寄りの郵便ポストに投函してください。

(お問い合わせ先)
草津市 健康福祉部 長寿いきがい課 長寿政策係
電 話 (077) 561-2372 (直通)
FAX (077) 561-2480
E-mail choju@city.kusatsu.lg.jp

個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、御確認ください。なお、本調査票の返送をもちまして、以下に同意いただいたものとみなさせていただきます。

【個人情報の保護および活用目的について】
この調査は、効果的な介護予防政策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、本市による介護保険事業計画および本市の他計画の策定にかかる業務等の目的以外には利用いたしません。また当該情報については、本市内で適切に管理いたします。

ただし、介護保険事業計画策定時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理する本市外のデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析することがあります。

問1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお答えください

1. 1人暮らし 2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下) 4. 息子・娘との2世帯
5. その他

(2) あなたは、實際の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

1. 介護・介助が必要ない 2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)

【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】
①介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(いくつでも)

1. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 2. 心臓病 3. ガン(悪性新生物)
4. 呼吸器の病気(肺炎・肺がん等) 5. 関節の病気(リウマチ等)
6. 認知症(アルツハイマー病等) 7. パーキンソン病 8. 糖尿病
9. 腎疾患(透析) 10. 視覚・聴覚障害 11. 骨折・転倒
12. 骨格損傷 13. 高齢による衰弱 14. その他 ()
15. 不明

【(2)において「3. 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】
②主にどなたの介護・介助を受けていますか(いくつでも)

1. 配偶者(夫・妻) 2. 息子 3. 娘
4. 子の配偶者 5. 孫 6. 兄弟・姉妹
7. 介護サービスのヘルパー 8. その他 ()

【(2)において「3. 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】
③主に介護・介助している人の年齢は、次のどれですか(1つに○)

1. 65歳未満 2. 65歳~74歳 3. 75~84歳 4. 85歳以上

(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

1. 大変苦しい 2. やや苦しい 3. ふつう
4. ややゆとりがある 5. 大変ゆとりがある

(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか

1. 持家(一戸建て) 2. 持家(集合住宅) 3. 公営賃貸住宅 4. 民間賃貸住宅(一戸建て)
5. 民間賃貸住宅(集合住宅) 6. 借家 7. その他

問2 からだを動かすことについて

(1) 階段をすずりや壁をつたわずに昇っていますか

1. できるし、している 2. できるだけしてない 3. できない

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

1. できるし、している 2. できるだけしてない 3. できない

(3) 15分位続けて歩いていますか

1. できるし、している 2. できるだけしてない 3. できない

(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか

1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

(5) 転倒に対する不安は大きいですか

1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

(6) 週に1回以上は外出していますか

1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2~4回 4. 週5回以上

(7) 昨年と比べて外出の回数が増えていますか

1. とても減っている 2. 減っている
3. あまり減っていない 4. 減っていない

(8) 外出を控えていますか

1. はい 2. いいえ

【(8)で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】
①外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)

1. 病気 2. 障害(脳卒中の後遺症など)
3. 足腰などの痛み 4. トイレの心配(失禁など)
5. 耳の障害(聞こえの困難など) 6. 目の障害
7. 外での楽しみがない 8. 経済的に出られない
9. 交通手段がない 10. その他 ()

(9) 外出する際の移動手段は何ですか(いくつでも)

1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク
4. 自動車(自分で運転) 5. 自動車(人に乗せてもらう) 6. 電車
7. 路線バス 8. 病院や施設のリフト 9. 車いす
10. 電動車いす(カート) 11. 歩行器・シルバーカー
12. タクシー 13. その他 ()

問3 食べることについて		
(1) 身長・体重		
身長 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> cm	体重 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> kg	
(2) 半年前と比べて食べ物が食べにくくなりましたか		
1. はい	2. いいえ	
(3) お茶や汁物等でむせることがありますか		
1. はい	2. いいえ	
(4) 口の渾きが強くなりますか		
1. はい	2. いいえ	
(5) 歯磨き（人にやってもらっても含む）を毎日していますか		
1. はい	2. いいえ	
(6) 歯の取入れ歯の利用状況をお教えてください (成人の歯の本数は、歯知らずを合せて32本です)		
1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし	
3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用	4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし	
①噛み合わせは良いですか		
1. はい	2. いいえ	
②【(6)で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」or「3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】毎日入れ歯の手入れをしていますか		
1. はい	2. いいえ	
(7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか		
1. はい	2. いいえ	
(8) どのような食事をもとにする機会がありますか		
1. 毎日ある	2. 週に何回かある	3. 月に何回かある
4. 年に何回かある	5. ほとんどない	

5

問4 毎日の生活について		
(1) 物忘れが多いと感じますか		
1. はい	2. いいえ	
(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか		
1. はい	2. いいえ	
(3) 今日が何月何日かわからない場合がありますか		
1. はい	2. いいえ	
(4) バスや電車で1人で外出していますか（自転車でも可）		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(6) 自分で食事の用意をしていますか		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(7) 自分で請求書の支払いをしていますか		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(9) 年金などの書類（住所や病歴などに出す書類）が書けますか		
1. はい	2. いいえ	
(10) 新聞を読んでいますか		
1. はい	2. いいえ	
(11) 本や雑誌を読んでいますか		
1. はい	2. いいえ	
(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか		
1. はい	2. いいえ	
(13) 友人の家を訪ねていますか		
1. はい	2. いいえ	
(14) 家族や友人の電話にのっていますか		
1. はい	2. いいえ	

6

(15) 前人を見舞うことができますか	
1. はい	2. いいえ
(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか	
1. はい	2. いいえ
(17) 趣味はありますか	
1. 趣味あり	()
2. 思いつかない	
(18) 生きがいはありますか	
1. 生きがいあり	()
2. 思いつかない	

問5 地域での活動について						
(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか						
※①～⑥それぞれに回答してください	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していません
① ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
② スポーツ関係のグループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③ 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④ 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤ (地域リソやいきいき百歳体操など) 介護予防のための通いの場	1	2	3	4	5	6
⑥ 老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦ 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧ 収入のある仕事	1	2	3	4	5	6
(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思えますか						
1. 是非参加したい	2. 参加してもよい	3. 参加したくない	4. 既に参加している			
(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思えますか						
1. 是非参加したい	2. 参加してもよい	3. 参加したくない	4. 既に参加している			

7

問6 たすけあいについて		
あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします		
(1) あなたの心配りや悩み（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）		
1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人
7. その他（ ）	8. そのような人はいない	
(2) 反対に、あなたが心配りや悩み（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）		
1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人
7. その他（ ）	8. そのような人はいない	
(3) あなたが病気や介護で数日間入院したときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）		
1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人
7. その他（ ）	8. そのような人はいない	
(4) 反対に、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）		
1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人
7. その他（ ）	8. そのような人はいない	

8

(6) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください (いくつでも)		
1. 自治会・町内会・老人クラブ	2. 社会福祉協議会・民生委員	
3. ケアマネジャー	4. 医師・歯科医師・看護師	
5. 地域包括支援センター・役所・役場	6. その他	
7. そのような人はいない		
(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか		
1. 毎日ある	2. 週に何度かある	3. 月に何度かある
4. 年に何度かある		5. ほとんどない
(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか 同じ人には何度かあっても1人と数えることとします		
1. 0人 (いない)	2. 1～2人	3. 3～5人
4. 6～9人		5. 10人以上
(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか (いくつでも)		
1. 近所・同じ地域の人	2. 幼なじみ	3. 学生時代の友人
4. 仕事での同僚・元同僚		5. 趣味や関心が同じ友人
6. ボランティア等の活動での友人		
7. その他		8. いない

9

問7 健康について												
(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか												
1. とてもよい	2. まあよい	3. あまりよくない	4. よくない									
(2) あなたは、現在の健康をどう感じますか (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)												
とても不幸	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	とても幸せ
(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか												
1. はい		2. いいえ										
(4) この1か月間、どうしても物事に對して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか												
1. はい		2. いいえ										
(5) お酒は飲みますか												
1. ほぼ毎日飲む		2. 時々飲む		3. ほとんど飲まない								
4. もともと飲まない												
(6) タバコは吸っていますか												
1. ほぼ毎日吸っている		2. 時々吸っている		3. 吸っていたがやめた								
4. もともと吸っていない												

10

(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (いくつでも)		
1. ない	2. 高血圧	3. 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)
4. 心臓病	5. 糖尿病	6. 高脂血症 (脂質異常)
7. 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気	
9. 腎臓・尿立線の病気	10. 筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等)	
11. 外傷 (骨折・骨折等)	12. がん (悪性新生物)	13. 血液・免疫の病気
14. うつ病	15. 認知症 (アルツハイマー病等)	16. パーキンソン病
17. 目の病気	18. 耳の病気	19. その他 ()

問8 認知症にかかる相談窓口の把握について			
(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか			
1. はい		2. いいえ	
(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか			
1. はい		2. いいえ	
(3) (2) で「1. はい」と答えた方にお聞きします あなたが知っている相談窓口はどこですか (いくつでも)			
1. 地域包括支援センター	2. 市役所	3. 認知症専門医	
4. かかりつけ医	5. 介護保険施設 (ケアマネジャー等)	6. 認知症なんでも相談所	
7. 社会福祉協議会	8. 民生委員	9. 認知症の人と家族の会	
10. 認知症コールセンター	11. その他 ()		

11

問9 介護保険サービスについて							
(1) 介護が必要となった場合、あなたはどこで介護を受けたいとお考えですか (1つに○)							
1. 自宅 (在宅)		2. 子ども、兄弟等親族の家					
3. 有料老人ホーム (サービス付き高齢者向け住宅を含む)		4. 認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)					
5. 介護保険施設 (特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設)		6. 病後ケア施設					
7. その他 ()		8. わからない					
(2) (1) で「4. 認知症対応型共同生活介護」、「6. 介護保険施設」と答えた方にお聞きします その真似等を希望されている理由は何ですか (あてはまるものすべてに○)							
1. 親類などで家族が不在のときが多く、在宅サービスだけでは心配だから		2. 現在の介護者の健康状態では在宅介護が難しいから					
3. 家族に介護の負担をかけたくないから		4. 一人暮らしのため、在宅サービスでは不安があるから					
5. 現在の自分の身体状況からみて、在宅サービスでは不安があるから		6. 現在の住環境 (家業構造) では在宅介護が難しいから					
7. 認知症などにより常に見守りが必要な状況にあり、在宅では介護が困難だから		8. 在宅サービスを利用して介護するよりも、経済的な不安があるから					
9. その他 (具体的に:)							
(3) あなたの介護保険料についての経済的負担感はどうですか (1つに○)							
1. 負担は感じない		2. この程度ならよい		3. やや負担が大きい		4. 負担が大きい	
(4) 介護サービスの提供を増やすことは介護保険料の額に大きく影響します。今後、介護サービスを充実させることで、利用者が増加すると保険料は高くなります。一方、介護サービスを抑制すると保険料の上昇を抑えることができます。あなたは、介護サービスと保険料の削減について、どのようにお考えですか (1つに○)							
1. 介護保険料が今より高くなっても、施設や在宅サービスの量を増やす方がいい		2. 施設や在宅サービスの量は現状程度とし、保険料も現状程度とするのがよい					
3. 施設や在宅サービスの量が低下しても、保険料が安いほうがいい		4. その他 (具体的に:)					

12

問10 その他
(1) あなたは、災害のときに不安なことはありますか (あてはまるものすべてに○)
1. 安全な場所まで避難できるかわからない 2. 災害などの情報が入手できるかわからない 3. どこ (どこ) に行きもとめてよいかわからない 4. 避難場所がどこにあるかわからない 5. 地域の危険な箇所がわからない 6. 緊急避難セットを常備していない 7. 災害時位置ダイヤルや伝言板のことがわからない 8. 頼れる家族などがいない 9. 健康面、身体面 (治療の必要な持病がある、歩きづら等) 10. その他 (具体的に:) 11. 不安は特にない
(1) - 2 災害等いざというときに避難する際、あなたの支援者はどなたですか (あてはまるものすべてに○)
1. 同居・近居の家族 2. 近隣の友人・知人 3. 町内会の人 4. 民生委員 5. その他 () 6. いない
(2) 介護保険制度外の高齢者福祉サービスなどについて、今後、利用したいと思うものをお答えください (あてはまるものすべてに○)
1. 配食 2. 調理 3. 排泄洗濯 4. 買い物代行 5. ごみ出し 6. 外出同行 7. 移送サービス (介保・福祉タクシー等) 8. 通院サービス 9. 情報提供等の貸与 10. 住宅改修助成 11. 緊急通報システム貸与 12. 日常生活用具貸付等 (電磁調理器・火災報知器・自動消火器等の給付および高齢者福祉電話の貸与) 13. ふとんクリーニングサービス (ふとんの水洗いサービス) 14. その他 (具体的に:)
(3) かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局はありますか (あてはまるものすべてに○を、病名等を入力)
1. かかりつけ医 (病名:) 2. かかりつけ歯科医 (病名:) 3. かかりつけ薬局 (薬局名:)
(4) 人生の最期をどこで迎えたいですか (1つに○)
1. 自宅 (在宅) 2. 子ども、兄弟等親族の家 3. 有料老人ホーム (サービス付き高齢者向け住宅を含む) 4. 認知症対応型共同生活介護 (グループホーム) 5. 介護保険施設 (特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設) 6. 病院等医療施設 7. その他 () 8. わからない

(5) 高齢者福祉について、今後どのような施策の拡充が重要とお考えですか (あてはまるものすべてに○)
1. 健康づくり対策の充実 2. 認知症対策の充実 3. 介護予防対策の推進 (いきいき百歳体操、転倒予防教室、車庫前・口からこにも体操など) 4. 寝たきり予防の充実 5. ボランティア活動のための場の確保 6. 高齢者を地域で見守るなどの住民による助け合い活動の取り組み 7. 高齢者の働く場の確保や収容のあわせん 8. 生涯学習やスポーツ、レクリエーション活動の催しの充実 9. 世代間交流の場づくり 10. 在宅サービスの充実 11. 施設サービスの充実 12. 身近で「通い」や「泊まり」などのサービスが受けられる事業所等の充実 13. 高齢者向け住宅の普及 14. 移動手段の充実 15. 道路・道路など高齢者に配慮したまちづくり 16. 介護している家族等の支援 17. その他 (具体的に:)
(6) 草津市では、「認知症サポーター養成講座」を開催していますが、知っていますか (1つに○) <small>認知症サポーターとは、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を支援し、支援する役割のことです。認知症サポーター養成講座では、クイズやグループワーク、寸劇等を通じて認知症の基本的な理解や認知症の人との接し方について学びます。</small>
1. 講座を受けたことがある 2. 名前は聞いたことがある 3. 知らない
(7) (6) で「2. 名前は聞いたことがある」「3. 知らない」と答えた方にお聞きします あなたは「認知症サポーター養成講座」を受講したいと思いませんか (1つに○)
1. 受講したい 2. 受講したくない 3. わからない
(8) 認知症があっても住み慣れた地域で安心して生活を続けるために、どのようなことが大切だと思いますか (あてはまるものすべてに○)
1. 目ごころからの声かけや挨拶 2. いきいき百歳体操やサロン、老人クラブ、認知症カフェなどの居場所づくり 3. 認知症であることを近所の人に話しておくこと 4. 認知症の理解を深め、認知症の人への対応を学ぶこと (認知症サポーターの養成) 5. 認知症の人が活躍できる場づくり 6. 特にない 7. その他 (具体的に:)

13

14

(9) 「成年後見制度」についてお聞きします。「成年後見制度」をご存知ですか (1つに○) <small>成年後見制度とは、認知症、知的障害、精神障害などにより判断能力が十分でない人の法律行為 (財産管理や契約の締結など) を、家庭裁判所が選任した成年後見人等が本人の代理として実行を行ったり、同意なく他人と不利益な契約を取り消すなどの保護や支援を行う制度。</small>
1. よく知っている 2. まあ知っている 3. あまり知らない 4. 全く知らない
(10) 仮に、将来あなたが「成年後見制度」を必要状態になったとした場合、「成年後見制度」を利用したいと思いませんか (1つに○)
1. ぜひ利用したい 2. まあ利用したい 3. あまり利用したくない 4. 利用したくない 5. わからない
(11) 「フレイル」をご存知ですか (1つに○) <small>フレイルとは、加齢とともに心身の機能が低下してきて、「健康」と「要介護」との中間の状態のことです。多くの高齢者がフレイル状態を経て要介護になるため、フレイル予防が健康寿命を延ばすカギと言われています。</small>
1. 知っている 2. 名前は聞いたことがある 3. 知らない
(12) 草津市では、「フレイル予防事業」を実施しています。あなたは「フレイル予防事業」に参加したいと思いませんか (1つに○) <small>フレイル予防事業では、要介護状態にならないための運動指導や、いきいき百歳体操・サロン等の通いの場での運動・健康の専門職による指導を実施しています。</small>
1. 運動指導教室に参加したい 2. 通いの場での運動に参加したい 3. どちらも参加したい 4. どちらも参加したくない 5. わからない

■■■■■■以上で調査は終了です。御協力ありがとうございました■■■■■■

御協力ありがとうございます。記入もれがないか、お確かめください。
 なお、郵送いただいた調査票は切り離すことなく、同封の返信用封筒に入れて、
2月20日(水)までに投函してください。
 ※返信用封筒に、この調査票のみを入れて投函してください。

15

草津市における単身世帯に関する調査研究報告書

-1人暮らし高齢者に着目して-

2023(令和5)年3月 発行

草津市 草津未来研究所

〒525-8588 滋賀県草津市草津三丁目13番30号

TEL 077-561-6009 FAX 077-561-2489

E-Mail kusatsumirai@city.kusatsu.lg.jp